開催ごあいさつ

TC 協会会長

岸 学

一般財団法人テクニカル
コミュニケーター協会　会長

みなさん、学校での授業や学習を思い出して、それらを次の８つに分類してください。①「わかるから面白い」、②「面白いからわかる」、③「わからないので面白くない」、④「面白くないのでわからない」、⑤「わかるけど面白くない」、⑥「面白くないけどわかる」、⑦「わからないけど面白い」、⑧「面白いけどわからない」。すべて思い当たる授業があると思います。最初の①から④までは当然といえます。①と②は完璧な授業と学習の結実です。③と④はさぞつらかったでしょう。⑤と⑥は簡単で退屈な授業だったでしょう。では、⑦と⑧は？実はこれが人間の知的活動として最も高度で高級なものと思います。「わからなさ」を解明しようとする大きなエネルギーを「面白さ」が後押しするのですから、エネルギーは持続し、増幅され、次々と新たな知が創造されるはずなのです。教員の立場からみると、この⑦と⑧の状態を引き出すために、授業内容や教材や発問などを徹底的に工夫し洗練させているのです。「面白い」という気持ちは「わからない」という認知を凌駕できる！

今回のシンポジウムのテーマは、「“ やってみたい ” を創造する UX」です。説明のわかりやすさを追求するのは勿論ですが、それに加えて、「面白い・うれしい・楽しい」などの要素を考えていこうという取り組みです。我々の知的探求心の根源に関わるテーマです。「面白いけどわからない」「わからないけど面白い」マニュアルとはどんなものなのでしょうか？良くないマニュアルであることは事実ですが、一考に値すると思いませんか？皆様の活発なコミュニケーションを期待しています。

経済産業省

小松原 繁

経済産業省
商務情報政策局
文化情報関連産業課
課長補佐

このたびは、テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2012 が関係各位の皆様のご尽力により盛大に開催されることに、心よりお慶び申し上げます。

この春、経済産業省は技術戦略マップ 2012（コンテンツ分野）を取りまとめました。この中で、今後特に重要になるコンテンツ技術分野のひとつとして、「サービス提供技術の向上」を選びました。サービス提供技術とは、ユーザーと製品やサービスとの双方向的な情報交換によって、ユーザーをこれまで以上に満足させるための技術を意味しています。このような技術の発展にはユーザー側も製品やサービスの持つ機能を十分に理解することが不可欠であり、貴協会の皆様の果たすべき役割も、より一層重要なものになると考えられます。

貴協会におかれましては、1992 年に設立されて以来、使用説明技術の向上、専門家の育成、関係者間の人的交流、標準化や国際交流の推進など、多面的な活動を着実に実施されてきております。今回のシンポジウムにおいても、参加者の皆様が最新のテクニカルコミュニケーションの動向に触れ、これまで以上に知見を深めることとなるものと期待しております。

結びに、テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2012 の成功と、貴協会及び御関係の皆様の一層の発展を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

実行委員長

守島 浩

（株）日立製作所
情報・通信システム社
IT プラットフォーム事業本部
開発統括本部
ソフトウェア本部 ユーザエクスペリエンス設計部 部長

日本のものづくり産業は、グローバリゼーションの潮流の中、貿易の自由化の波、円高による輸出産業の打撃、アジア諸国をはじめとする新興国の台頭と工業製品のコモディティー化の進行など国際競争の激化にさらされ、取り巻く環境は激変しています。安くて良質な工業製品が大量に流通する買い手市場の時代となり、新たな軸を持って市場価値を高めていかなければ、我々の生き残る道はないと言わざるを得ないでしょう。
四半世紀にも及ぶシンポジウムの歴史において、危機感を共有し新たな時代への希望を指し示すことを今年のテーマにしたいと考え、UX（ユーザエクスペリエンス）を選びました。
UX とは、お客様が製品やサービスを購入し、それを使用する際に得られる質の高い「経験」や「体験」を作り手の提供価値とする考え方です。
ここ数年で、お客様にとって本当に重要なことは、機能や性能ではなくなってきました。その製品を使うことで、仕事が楽しくなったり、やりたかったことが簡単に実現できるようになる。お客様がシステムに合わせるのではなく、システムがお客様に寄り添う。そのような体験や経験に大きな価値を見出し始めてきたのです。
今年のシンポジウムでは、「UX とは何か？」から、「どのように UX を実現すればよいか？」といったことまで、様々な事例に基づき、UX について議論していきたいと考えています。
今年は、昨年大盛況でした京都会場の規模を維持して、東京と京都を同規模開催とすることにしました。その様な活気あるシンポジウムにおいて、弊社が幹事会社として微力ながら貢献させていただけること、新たなテーマでの開催にご理解をいただきましたことに、TC 協会並びに関係者の皆様に深く感謝致します。また、この様な取組みを通して、日本のものづくり産業が危機を乗り越え、益々発展していくことを祈念致しております。

関西地区代表

村田 珠美

（株）テックコミュニケーションズ
制作部マネージャー

情報の「探しやすさ」や「理解しやすさ」を、いかにしてお客さまに提供していくのか？
この課題への取り組みとして、私達テクニカルコミュニケーターは「情報を整理して伝える」ことを常に追究してきました。「情報を提供する」だけでなく、いかに整理してわかりやすく伝えるかがテクニカルコミュニケーターに求められている重要な役割であることは、これからも変わることはないでしょう。
情報は五感を駆使することで、より伝わりやすくなります。視覚や聴覚はもとより、実際に触れる・体験することで、製品やサービスに親近感が増し、理解度は高まっていきます。このときにお客さまが感じる「うれしさ」や「心地よさ」をテクニカルコミュニケーターが届けられることを目指して、今年のテーマを決定いたしました。
“ やってみたい ” を創造する UX
このテーマへの取り組みは、使用説明をどのようなシーンでお客さまに活用していただくのかを見直す機会でもあります。使用説明は、お客さまが購入された製品やサービスの使い方を知るための情報であるばかりでなく、購入前に「使ってみたい」「試してみたい」というアクションを起すためのきっかけとしての役割をも担っていることにほかなりません。
シンポジウム開催が 24 回目を数える今年は、テクニカルコミュニケーター協会の創設 20 周年にあたる記念すべき年です。この記念すべき年を、情報を発信するメディアの多様性への対応はもとより、テクニカルコミュニケーターの担う役割を新たな視点で見つめなおす機会にしていただければと願っております。

京都開催 プログラムの概要

TC シンポジウム 2012【京都開催】に参加いただくには、入場券が必要です。
入場券は 2 日間共通で、基調パネルディスカッション、パネルディスカッション、プレゼンテーション、および tcworld Japan に参加できます。tcworld Japan については、10/3（水）から開催しています。
特別セッションに参加希望の方は、入場券と特別セッション券が必要です。
本プログラムでは、次のような企画について、それぞれの内容をご紹介しています。

基調パネルディスカッション

TC シンポジウム 2012 では、従来の基調講演ではなく、基調パネルディスカッションを企画しています。本年度の全体テーマに取り上げた「ユーザーエクスペリエンス（UX）」とは何かについて考え、実践されている事例から、モノづくりや製品のコミュニケーション設計の中で、テクニカルコミュニケーターの担う役割を多面的に掘り下げます。長年 UX を実践してきた有識者や各社の現場での取り組みを実践している責任者などのエキスパート達が登壇します。

特別セッション

6 セッション（1 セッション 150 分）
ライティング、編集デザイン、UX 関連、制作ツール・管理など、実務経験豊富な講師による実戦的なセッションです。講師が、テーマ別にスキルや知識を解説し、学習と自己啓発の機会を提供します。ワークショップ形式による特別セッションには、参加者がその場で取り組む実習課題が含まれます。参加するためには、ご希望の特別セッションごとに事前にお申し込みください。

パネルディスカッション

10 セッション（1 セッション 150 分）
テクニカルコミュニケーションの旬な話題を幅広く取り上げ、制作プロセスやツールなどに関する最新の技術動向、業界動向などについて討論するセッションです。3 名ほどのパネリストが一緒に登壇し、各セッションのテーマに関して、最新の取り組み事例や動向を紹介し、今後の動きや留意点などをディスカッションを通じて浮き彫りにします。コーディネーターは、ディスカッションの進行をコントロールする役割を担います。

プレゼンテーション

10 セッション（1 セッション 60 分）
商品展示＆プレゼンテーションに参加を申し込んだ企業により、使用説明の制作に役立つソリューションやツールを紹介します。紹介されるソリューションやツールは、展示会場において触れてみることもできます。

交流会

TC シンポジウムの参加者が同じ TC 分野または関連分野の業務に携わる方々と交流していただく場として、1 日目（4 日）のセッション終了後に交流会を開催いたします。海外からのゲストも数多く参加する予定です。交流会については、別紙の案内を同封しておりますので、ご覧ください。

tcworld Japan 2012

12 セッション（1 セッション 60 分）
tekom（ドイツ TC 協会）と TC 協会の連携により、2011 年から実現した新たな企画です。ヨーロッパを中心に活動する国際企業が、自社の技術について研究発表やソリューション紹介を行います。10/3（水）に 5 セッション、10/4（木）と 10/5（金）で計 7 セッションを実施します。
また、これらの企業は展示会場の tcworld コーナーにおいてブース展示を行い、ツールやソリューションを紹介しています。
10/4（木）、10/5（金）の昼休みには、tcworld の展示企業を訪問するガイドツアーを実施します。
※ tcworld Japan 2012 は tekom が保有するブランドネームです。

京都開催 プログラム

◉部屋割りは、当日ガイドマップでご案内します。
このプログラムは当日もご持参ください。
◉申し込み方法は、88 ページをご覧ください。

10月3日[水]

start ➔ 10:00 / finish ➔ 11:30 / 11:30 / 13:00

TC 協会 創設 20 周年 記念イベント	◇ 解説：中国国家標準GB最新動向（別途申し込み要）	◇ 国際 TC 検定試験予告 ◇ マニュアルオブザイヤー選定結果発表
tcworld Japan	tc 01 ユーザビリティ向上とコスト削減の両立を実現する	tc 02 リキッド・コンテンツをマスターする
展示会		◉展示会は11:30 ➔18:00

10月4日[木]

start ➔ 10:00 / finish ➔ 11:00 / 11:30 / 12:30

基調パネルディスカッション	[基調パネルディスカッション] ユーザエクスペリエンスとは ～ユーザの想像を超えた感動価値の創造～	
特別セッション	特 01 テクニカルコミュニケーターの理論武装	
	特 02 リライトビフォーアフター	
	特 03 イラストで伝えるおもてなし ～効果的なテクニカルイラストを生み出すためのアプローチ～	
tcworld Japan	tc 06 Localization Maturity Model ©およびOperational Excellenceの原理を用いて、次世代のローカリゼーション(無駄のない多言語対応)を実現するために	tc 07 「制約理論」(中東、イスラエル)と「トヨタ製造システム」(日本)を活用し、競争力を高める
展示会	◉展示会は10:00 ➔17:00	

10月5日[金]

start ➔ 10:00 / finish ➔ 11:00 / 11:30 / 12:30

パネルディスカッション	パ 05 欧州に学ぶ — サービスマニュアルとは？ ～欧州サービスマニュアルの現状、そして日本の課題～	
	パ 06 フォントのチカラ2 ～いまの制作者に必要な知識とは？～	
	パ 07 実践インフォグラフィックス(理論編：パネルディスカッション) ～図解のための思考術～	
プレゼンテーション	プ 05 和文校正支援の定番ツール！ ～ InDesign/AcrobatでJust Right!をフル活用～	
	プ 06 FrameMaker関連情報発信第2弾：FrameMakerとRoboHelpの最新情報	プ 07 テクニカル・コミュニケーション・スイート最新版を利用して生産性を向上
特別セッション	特 05 テクニカルライターのためのHTML5超入門 ～ソーシャル＆マルチデバイス時代の新常識～	
tcworld Japan	tc 10 Arancho Doc社の概要紹介	tc 11 Comet社の概要紹介
展示会	◉展示会は10:00 ➔16:00	

パ=パネルディスカッション プ=プレゼンテーション 特=特別セッション tc=tcworld Japan

13:30 ～ 18:00

◇記念講演：欧州マニュアルコンテストの評価基準
◇スマホ・タブレット端末時代のマニュアル制作環境はどうなる！？（別途申し込み要）

tcworld Japan
- tc03 機械翻訳：知識ベースとリアルタイムのチャットを活用する
- tc04 複雑なドキュメント作成をSCHEMA ST4で簡単にする
- tc05 2D/3Dのパーツカタログ電子化 ～シンプルなドキュメントの作成からeコマースの実現まで～

◉展示会は11:30 ➔18:00

14:00 ～ 15:00 / 15:30 ～ 16:30 / 19:00～

パネルディスカッション
- パ01 マニュアル制作とコンテンツ管理 ～マニュアル制作業務にCMSを活かせるか？～
- パ02 失敗を繰り返さない仕組みづくり ～個人の気づきやノウハウを組織の力にするためには？～
- パ03 VOC活動の実践事例から学ぼう ～ UXアプローチって儲かりまっか？～
- パ04 MOY2012ノミネート作品から学ぼう！

プレゼンテーション
- プ01 Author-itのご紹介 ～トピック指向文書作成・管理・出力の新製品～
- プ02 DTPスキルをWebスキルに移行しよう！ ～ Adobe Creative Suite 6の活かし方～
- プ03 “ロングテール”言語 ～新興国の希少言語への対応戦略～
- プ04 ProofChecker PROとpdfToolboxのご紹介 ～ 2種のツールで効率よく正確なデータ作成を～

特別セッション
- 特04 UXデザイン方法について

tcworld Japan
- tc08 Acrolinx ～ドキュメントのグローバル展開を支援する言語品質管理システム～
- tc09 SCHEMA ST4: 最先端のシングルソース・システム

交流会

展示会 ◉展示会は10:00 ➔17:00

※昼休みにtcworld Japanのガイドツアーを実施します。

14:00 ～ 15:00 / 15:30 ～ 16:30

パネルディスカッション
- パ08 3DとTCのおいしい関係
- パ09 事例集でUXを提供する ～ユーザーのあんなことしたい、こんなことしたいを事例にする～
- パ10 FrameMakerはどこへ行くのか？ ～その来歴・特性を確認しながら今後の可能性を考える～

プレゼンテーション
- プ08 軽量3DデータXVLで効率的にイラスト作成 ～ 3Dデータから高品質イラスト作成、大幅なコスト削減を実現～
- プ09 多言語ドキュメント作成のスピードアップ、コスト削減 ～部品（モジュール）単位での編集による取扱説明書／整備解説書の製作効率化事例～
- プ10 統合情報管理システム - GRIPS

特別セッション
- 特06 実践インフォグラフィックス（実習編：ワークショップ） ～図解のための思考術～

tcworld Japan
- tc12 翻訳工程および関連のサプライ・チェーンに、クラウド対応の新世代翻訳システムが与えたインパクトとは

展示会 ◉展示会は10:00 ➔16:00

※昼休みにtcworld Japanのガイドツアーを実施します。

京都開催 テーマ別ガイド

		10月4日（木）	10月5日（金）
基調パネルディスカッション		ユーザエクスペリエンスとは ～ユーザの想像を超えた感動価値の創造～	
パネルディスカッション	ユーザエクスペリエンス	パネル03 VOC活動の実践事例から学ぼう ～UXアプローチって儲かりまっか？～	パネル09 事例集でUXを提供する ～ユーザーのあんなことしたい、こんなことしたいを事例にする～
	企画立案	パネル04 MOY2012ノミネート作品から学ぼう！	パネル05 欧州に学ぶ ― サービスマニュアルとは？ ～欧州サービスマニュアルの現状、そして日本の課題～
	ディレクション	パネル02 失敗を繰り返さない仕組みづくり ～個人の気づきやノウハウを組織の力にするためには？～	
	ビジュアルデザイン		パネル07 実践インフォグラフィックス（理論編：パネルディスカッション） ～図解のための思考術～
	情報アーキテクチャ		パネル06 フォントのチカラ2 ～いまの制作者に必要な知識とは？～
	基盤技術	パネル01 マニュアル制作とコンテンツ管理 ～マニュアル制作業務にCMSを活かせるか？～	パネル08 3DとTCのおいしい関係 パネル10 FrameMakerはどこへ行くのか？ ～その来歴・特性を確認しながら今後の可能性を考える～
特別セッション	ユーザエクスペリエンス	特別セ04 UXデザイン方法について	
	ビジュアルデザイン		特別セ06 実践インフォグラフィックス（実習編：ワークショップ） ～図解のための思考術～
	ライティング	特別セ02 リライトビフォーアフター	特別セ05 テクニカルライターのためのHTML5超入門 ～ソーシャル＆マルチデバイス時代の新常識～
	基盤技術	特別セ01 テクニカルコミュニケーターの理論武装 特別セ03 イラストで伝えるおもてなし ～効果的なテクニカルイラストを生み出すためのアプローチ～	

会場のご案内

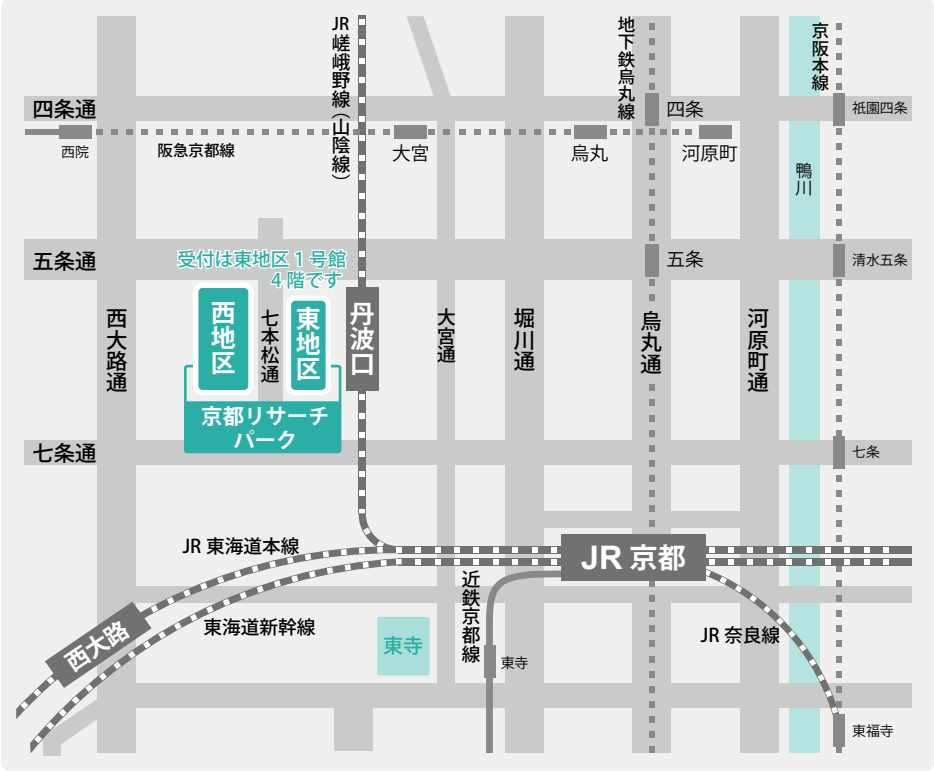
会場
京都リサーチパーク

京都府京都市下京区
中堂寺南町１３４
サイエンスセンタービル
TEL：075-322-7800

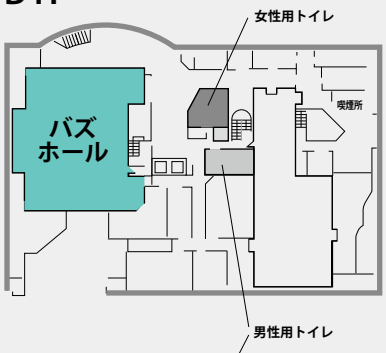
JR 嵯峨野線（山陰線）
丹波口駅下車　西へ徒歩 5 分

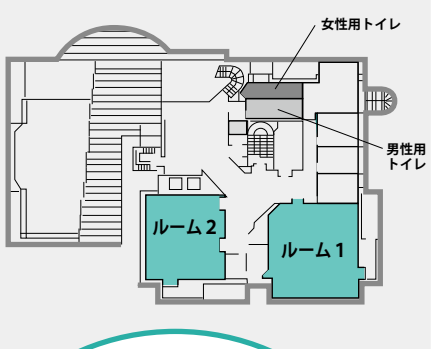
京都駅簡易時刻表

7 時	07	20	40	53
8 時	10	26	43	
9 時	00	17	38	57
		｜		
12 時	17	37	57	
13 時	17	37	57	

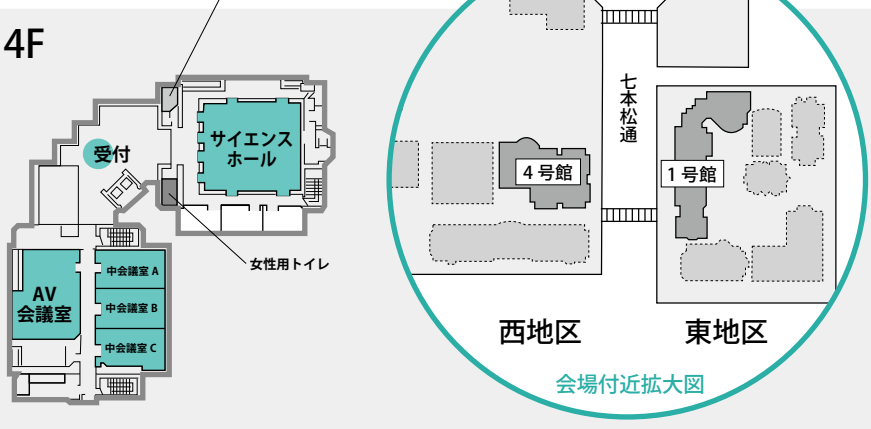


西地区４号館





東地区１号館
（4F が総合受付となります）



ユーザエクスペリエンス
ビジュアルデザイン

ユーザエクスペリエンスとは
～ユーザの想像を超えた感動価値の創造～

■ディスカッションの趣旨

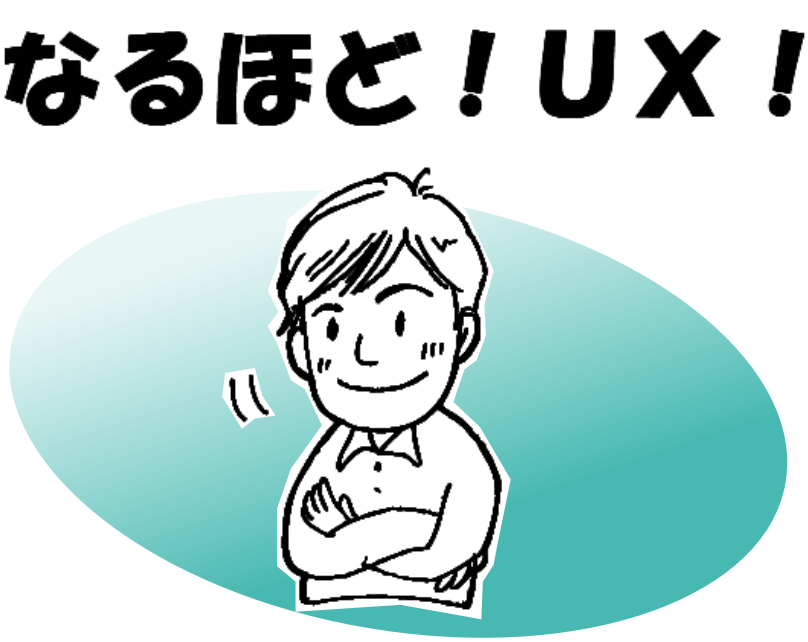
" やってみたい " を創造するために、テクニカルコミュニケーターはユーザエクスペリエンス（＝ UX）に、どのように向き合っていくのか？
東京開催で「UX とは何か」、「なぜ UX が必要か」、「どのように感動体験を生み出すか」を議論し、京都開催でも有識者や実務者などの エキスパートを交えて、パネルディスカッションを展開する。UX についての正しい理解を促し、製品やサービスの感動価値の創造および、使用説明の制作という、異なる立場からの事例紹介を交えながら議論を掘り下げる。

■ディスカッションのポイント

・UX とは何か
・ユーザビリティから UX へ
・UX の必要性
・どのようにして UX を向上させるのか
・テクニカルコミュニケーターは UX 向上にどのように関われるのか

■ディスカッションの流れ

1. UX についての解説
2. 東京開催での議論を紹介
3. 作り手の立場から UX の事例を紹介
4. テクニカルコミュニケーターの立場から、使い手に伝えるための UX 事例を紹介
5. コーディネーターとパネリストによるディスカッション



コーディネーター

安藤　昌也

千葉工業大学

■プロフィール

早稲田大学 政治経済学部 経済学科卒。総合研究大学院大学 文化科学研究科 メディア社会文化専攻修了。博士（学術）。
ユーザエクスペリエンス（UX）および人間中心設計の研究が専門。十数年来のコンサルタントの経験を活かし、企業などとの共同研究で、UX デザインやサービスデザインの方法論やアプローチの実践にも取り組んでいる。HCD-Net 理事。
HCD-Net 認定人間中心設計専門家。専門社会調査士。

パネリスト

高橋　慈子

（株）ハーティネス

■プロフィール

東京農工大学卒。技術雑誌の編集、フリーのテクニカルライターを経て、1988 年にテクニカルコミュニケーションの専門会社ハーティネス設立。同代表取締役。マニュアルや解説書の執筆、制作のほか、企業でのライティング研修の企画、実施に携わる。大妻女子大学特任准教授、慶應義塾大学、立教大学講師。近著に『スマホではじめる Facebook』（インプレス刊）

寺田　安夫

パナソニック（株）

■プロフィール

1963 年山口県生まれ。入社後、AV 商品の取扱説明書、サービスマニュアルの設計を 20 年以上経験し、昨年からパナソニックの取扱説明書の全社行政を担当。
事業場では、CS 部門でサービス職能も経験し「お客様視点での取扱説明書の設計」をパナソニック全社で推進中。

守島　浩

（株）日立製作所

■プロフィール

1986 年、熊本大学工学部電子工学科卒、株式会社日立製作所ソフトウェア工場入社。
大型汎用コンピュータのオペレーティングシステムのスーパバイザプログラムの開発、ストレージの運用管理ミドルソフトウェアの開発に従事。2009 年よりユーザエクスペリエンスに重点をおいたお客様価値の向上とそれを実現する社内業務革新・ワークスタイル革新に注力。

企画担当者

黒田　晋一
（株）島津製作所
村田　珠美
（株）テックコミュニケーションズ

▲日英同時通訳あり▲

パネルディスカッション

CMS
業務改善

01 マニュアル制作とコンテンツ管理

マニュアル制作業務に CMS を活かせるか？

コーディネーター

畝本　あい子
（株）島津製作所

パネリスト

大橋　則行
（株）PMC

黒田　聡
（株）情報システムエンジニアリング

東原　俊輔
（株）ケイテック

企画担当者

松川　博彦
（株）パセイジ

矢内　英彦
（株）ナビックス

■ディスカッションの趣旨

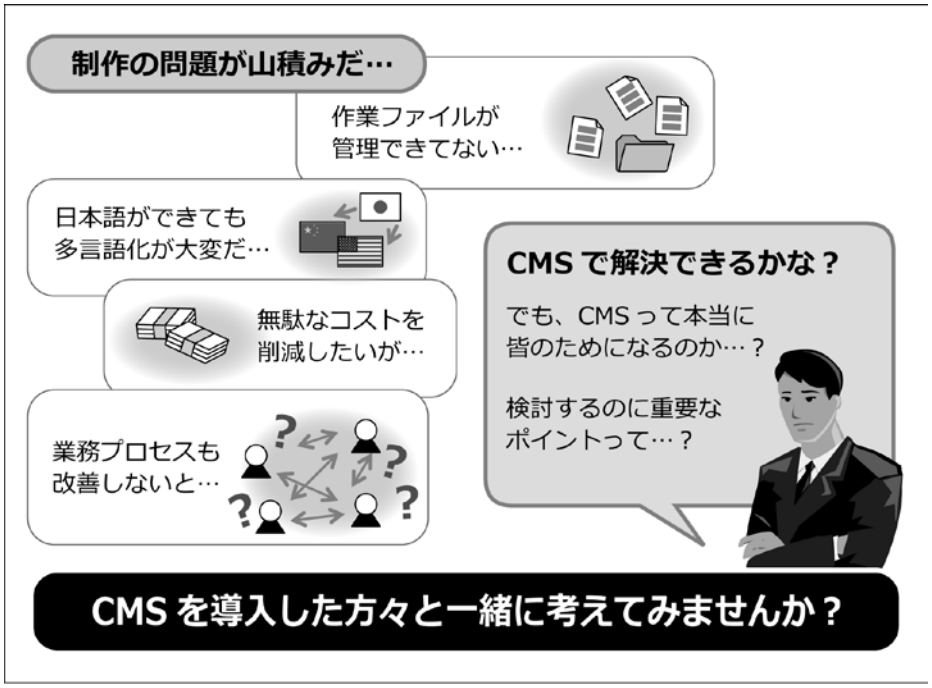
CMS を利用したマニュアル制作の事例や情報がまだまだ少ない。CMS を導入すると、山積みになっている制作現場での問題を解決できるのだろうか。また、効率化やコスト削減に繋がるのだろうか。このパネルディスカッションでは、制作業務に精通しているパネリストをお招きし、業務の目的やゴール設定の考え方、CMS の導入ステップについて事例紹介や見解を交えながら、聴講者とともに CMS のメリットと課題について考える。

■ディスカッションのポイント

既存マニュアルや制作工程の課題をもとに、制作プロセスの改善や仕組み作りに取り組んだ経緯を踏まえつつ、制作現場で CMS をどのように利用するかをディスカッションする。また、CMS を多言語展開に活用するポイントを探る。

■ディスカッションの流れ

1. 本ディスカッションで扱う CMS の範囲と定義
2. CMS の導入事例
3. 顧客や制作現場におけるメリット
4. データベース依存によるマニュアル制作のリスク
5. 今後の展望



02 失敗を繰り返さない仕組みづくり

個人の気づきやノウハウを組織の力にするためには？

コーディネーター

清水　義孝
（株）クレステック

パネリスト

石川　秀明
ヤマハ（株）

岸本　晃治
（株）アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ

細田　達幸
パナソニック（株）

企画担当者

石川　秀明
ヤマハ（株）

■ディスカッションの趣旨

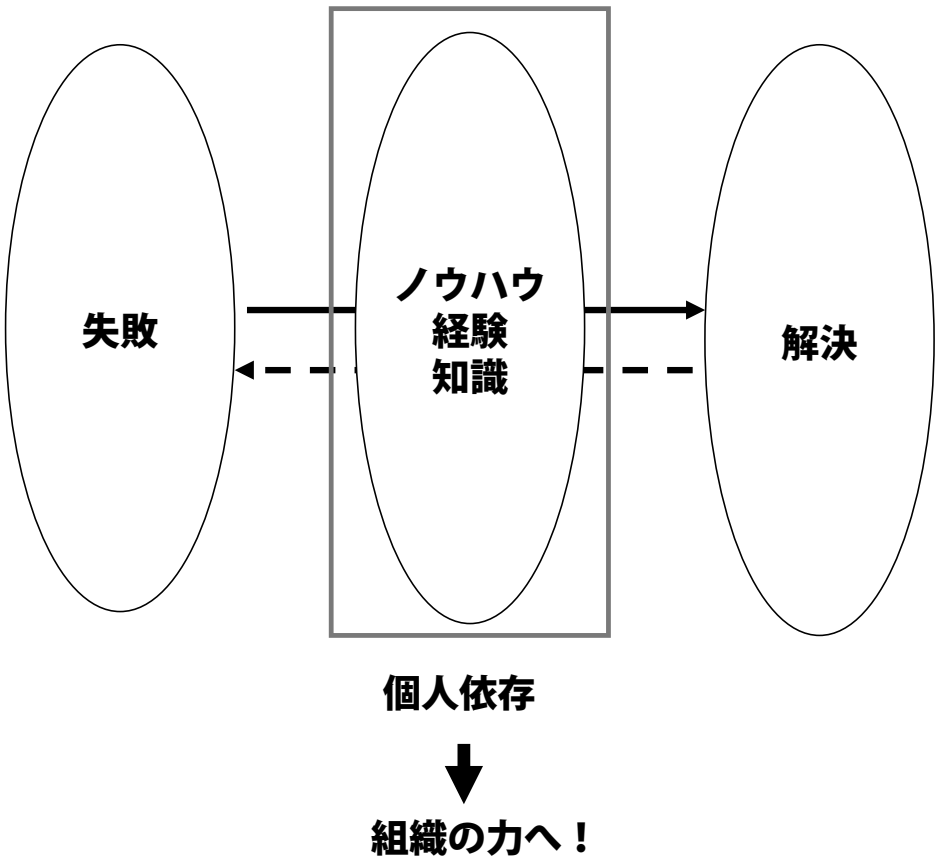
使用説明の制作では、過去に失敗したことや、知恵と工夫でトラブルを乗り切ったこと、そのほかさまざまなノウハウを、どうやって伝承していくか、は、個人のスキルが大部分を担う使用説明の制作業務に非常に重要なテーマである。人事異動、担当者の交代などで流動的になりやすい制作環境において、個人の気づきやノウハウを組織の力にしていくにはどうしたらよいか、をさまざまな立場からディスカッションする。

■ディスカッションのポイント

ノウハウの伝承を中心に、失敗を繰り返さない工夫をどうやってしているかを、それぞれの立場から紹介する。JustRight などの校正ツールを使用している場合は、考えずに使用する状況にならないよう、ツールを使用する意味や思想の伝承の仕方について考え、ツールをより有効に活用するためのヒントを探る。

■ディスカッションの流れ

現在工夫していること、現在の課題と解決策の提案、研修のやり方など、具体的な例を出しながら会話。パネル聴講者にも挙手などでアンケートをしたり、意見を伺ったりして、今後のノウハウ伝承のやり方を考えてもらう。校正ツールについては、ツールそのものではなく、活用の前提となるノウハウのフィードバックについて考える。



パネルディスカッション

ユーザエクスペリエンス
VOC

03 VOC 活動の実践事例から学ぼう

UX アプローチって儲かりまっか？

コーディネーター

寺田　安夫
パナソニック（株）

パネリスト

伊與田　智美
（株）資生堂

藤崎　順平
ネスレ日本（株）

水口　実
フジ印刷（株）

企画担当者

梶谷　彰一
パナソニック（株）

▲日英同時通訳あり▲

■ディスカッションの趣旨

商品の購入前、購入時、購入後のあらゆるお客様との接点で得た情報を活用し、「感動」、「うれしさ」や「楽しさ」を提供する事例を紹介する。

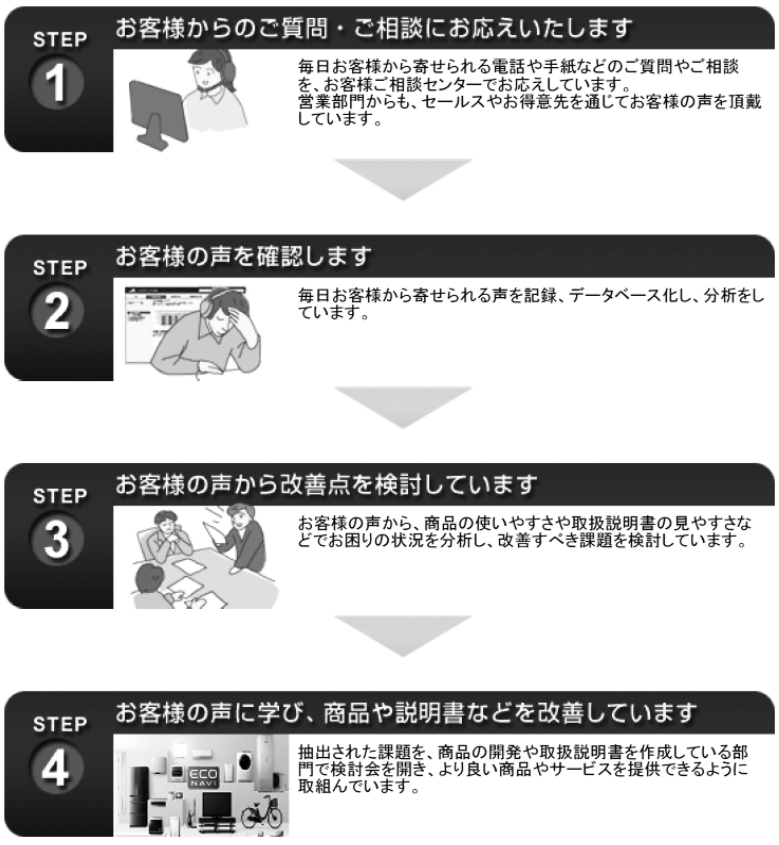
特に企業において情報の発信基地となる「お客様相談センター」の果たす役割や取り組みにスポットを当て、UX アプローチの実践による価値創造で、顧客満足を高めるポイントは何かを探るセッションとする。

■ディスカッションのポイント

お客様の声（Voice Of Customer）は、製品開発、操作性改善、品質改善、取説改善、サービス性改善などにおける「宝の山」であると考えられる。特に、クレームはマイナスイメージであるが、ピンチをチャンスに変える活動につながり、まさに「宝の山」となる。この膨大なお客様の声を「宝の山」とするための苦労談や克服談についてディスカッションする。そして、お客様が喜び、感動する価値を提供するための鍵を議論する。

■ディスカッションの流れ

- 分野の違う業界（家電メーカー、通信販売、化粧品、制作会社）における取り組み事例を通じて、お客様の声を、お客様相談センター、モノづくり部門が日々「対応」・「分析」し、商品企画・設計、CS・品質部門及びマーケティング部門と連携し、「検討」・「改善」に向けた継続的な取り組み事例を各パネリストから紹介する。
- 製品分野や流通分野は違うが、UX を向上するための共通の鍵となることや UX が事業活動に貢献できるのか、その重要な取り組みは何であるかを議論する。



04 MOY2012 ノミネート作品から学ぼう！

コーディネーター

徳田　直樹
（株）パセイジ

パネリスト

マニュアル オブ ザ イヤー（MOY）2012 受賞者
MOY にノミネートされた担当者 2～3 名

企画担当者

藤井　尚史
パナソニックビジネスサービス（株）
武藤　ともえ
ダイキン福祉サービス（株）

▲日英同時通訳あり▲

■ディスカッションの趣旨

マニュアルコンテスト 2012 受賞作品を俯瞰し、共通する法則を徹底解剖する。2011 年より続く 2 年目のテーマである。よいマニュアルを制作するための基本的な考え方、価値観、困難や苦難へ立ち向かう姿勢、お客様ニーズの把握と反映、スケジュール・予算の立て方や進め方、評価方法など、必ず共通点があるはず。大きな変革の時代にありながら、変えるべきところ、変えざるべきところを、全応募 74 点から選抜された優秀作品から学びあおう！

■ディスカッションのポイント

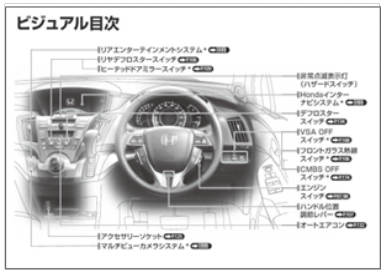
- 応募資料そのものによる企画意図・解説が聴ける
- 時代との繋がりはどこかが学べる
- 今年の「売り＝注目してほしいところ」はどこかを知ることができる
- プロセス重視か　コンテンツ重視かを学べる
- われわれでも実現できるか確認できる

■ディスカッションの流れ

1. マニュアルコンテスト受賞作品の特徴
2. 受賞マニュアルの紹介
3. 苦労談＋克服談についてディスカッション
4. われわれでも実現できる着目点・手法についてディスカッション
5. ユーザーの喜ぶ（UX）取説についてディスカッション

MOY 2008

MOY 2009



MOY 2010

MOY 2011

パネルディスカッション

企画立案
評価

05 欧州に学ぶ ― サービスマニュアルとは？

欧州サービスマニュアルの現状、そして日本の課題

コーディネーター

石井　満
（株）シーエフメディアジャパン

パネリスト

Mr. Armin Burry
tekom

Ms. Magali Baumgartner
tekom

鋤野　英俊
ダイキン福祉サービス（株）

渡部　正一
（株）ビーエス

企画担当者

岡本　浩
（有）ユーザーフレンドリー

堀江　俊昭
（株）テックコミュニケーションズ

▲日英同時通訳あり▲

■ディスカッションの趣旨

tekom（ドイツ TC 協会）のマニュアルコンテストでは、日本とは異なり、サービスマニュアルも含めて審査が行われている。欧州で求められるサービスマニュアルとは、一体どのようなものなのか？ 欧州のサービスマニュアルの事例を取り上げ、重要なポイントやノウハウを紹介しながら、日本のマニュアル業界が取り組むべき点を見いだす。さらに、サービスの現場から何が求められているのかを、メーカーとフィールドの両方の視点から議論し、実演を交えながらサービスマニュアルのあるべき姿を探る。

■ディスカッションのポイント

- 欧州におけるサービスマニュアルの現状とは？
- 欧州で求められているサービスマニュアルとは、どんなものなのか？
- 欧州と日本では、サービスマニュアルに対する考え方の何が違うのか？
- メーカーが考えるサービスマニュアルとは？ 一方、サービス現場が考えるサービスマニュアルとは？
- これからのサービスマニュアルは、どうあるべきか？

■ディスカッションの流れ

1. 欧州におけるサービスマニュアルの現状（位置付け）
2. 事例紹介
3. サービスマニュアルに対する考え方の共通点と相違点（欧州と日本の比較）
4. メーカー側、サービス側双方の " 生の声 "、そして、現場が本当に必要としているサービスマニュアルの姿
5. 制作プロセスの実演を交えながら、喜ばれるサービスマニュアルを実現するための手法を考察

06 フォントのチカラ 2

いまの制作者に必要な知識とは？

コーディネーター

大谷　健一
アベイズム（株）

パネリスト

阿野　勝俊
（株）モリサワ

森　裕司
（有）ザッツ

他 1 名交渉中

企画担当者

堀内　裕
アベイズム（株）

企画協力

黒田　聡
（株）情報システムエンジニアリング

■ディスカッションの趣旨

技術の進歩によるメディアの多様化により、紙媒体以外でコンテンツの情報発信をする機会が増えている。だが、制作側における体系的知識は、紙媒体制作時代のそれからあまり変わっていない。本パネルでは、情報アーキテクチャの検討要素のひとつであるフォント技術に焦点をあて、従来の紙媒体限定の制作（DTP・印刷）からマルチデバイス対応への激変するコンテンツ制作現場に必要な、フォントに関する技術を探る。

■ディスカッションのポイント

これからのテクニカルコミュニケーターが知らなければならないフォントに関する知識を、コンテンツ制作プロセス別に整理。フォントベンダーの方の意見も交え、マルチデバイス時代のテクニカルコミュニケーターが、フォントに関して知っているべき事柄を体系的にまとめていく。なお、本セッションでは、昨年の TC シンポジウムで詳しく取り上げたフォントのグリフデザインについては言及しない。

■ディスカッションの流れ

1. フォント技術のポイント　表現設計、制作事故防止、効率向上
2. 制作基盤検討に際して考慮する技術要素
3. 使用説明の企画プロセスにおいて考慮する技術要素
4. 制作プロセスにおいて考慮する技術要素
5. マルチデバイス時代にフォント技術を使いこなすポイント

07 実践インフォグラフィックス（理論編：パネルディスカッション）

図解のための思考術

コーディネーター

吉川　明
（株）日立テクニカルコミュニケーションズ

パネリスト

角谷　和好
京都精華大学

木村　博之
（株）チューブグラフィックス

清水　義孝
（株）クレステック

企画担当者

長久保　律子
（株）富士通ラーニングメディア

▲日英同時通訳あり▲

■ディスカッションの趣旨

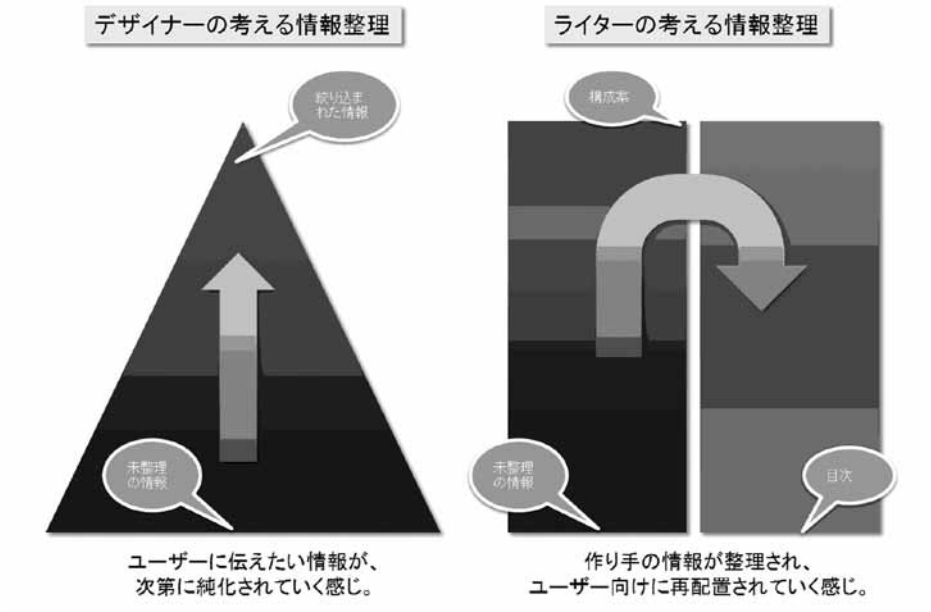
去年のシンポジュームではインフォグラフィックスとは何かを取り上げた。今年はその続編として現場への活用について実務的な議論を進める。当パネルディスカッションでは、理論的な部分（情報整理・分析、コンセプト立案、優先度の設定と表現カテゴリーの選択）といった部分を中心に議論する。連動企画のインフォグラフィックスのワークショップで実習をする前提で各事例の解説、活用手法等を中心に議論する。

■ディスカッションのポイント

インフォグラフィックスは優れた手法だが、すべてのTC現場や取扱説明書にすぐに生かせるかといえば、そう単純にもいかない現状がある。まずインフォグラフィックスの5つの観点をTC流に解釈するとどうなるのか、ダイヤグラム、チャート＆テーブル等の表現はどんな説明に向いているのかを整理しポイントを検証する。同時に関連する特別セッション（実習編）に関連した題材を取り上げ現場のスキルアップに配慮したパネルとした。

■ディスカッションの流れ

- 情報の整理手法と入力のあり方
- 具体的な表現カテゴリー（ダイヤグラム、チャート＆テーブル、グラフ等）の活用範囲と表現特性による選択方法とその考え方。
- TC固有の問題への対応
- 事前課題に対応したワークショップ連動事例の検討と解説



パネルディスカッション

3DCAD
イラスト

08 3D と TC のおいしい関係

コーディネーター

川内　カツシ
（株）テクノアート

パネリスト

笠井　貴之
（株）島津製作所

鳥谷　浩志
ラティス・テクノロジー（株）

畠　博司
デジタル総研（株）

企画担当者

金本　誠
（株）テックコミュニケーションズ

企画協力

大西　茂巳
（株）テックコミュニケーションズ

小谷　孝行
島津エンジニアリング（株）

■ディスカッションの趣旨

製品開発プロセスでは 3DCAD を活用する機構設計が主流になり、現物の試作サンプルが無い状態で、生産資料や製品マニュアルの作成に取り組んでいる。テクニカルコミュニケーターも 3DCAD を前提とした制作フローに順応することが求められている。また、マニュアル自体もビジュアル（画像や映像など）を活用し、閲覧環境の変化（PC やタブレット）にも対応する必要がある。そのような中、3D データのマニュアルへの活用は、どこまで進んでいるのだろうか？

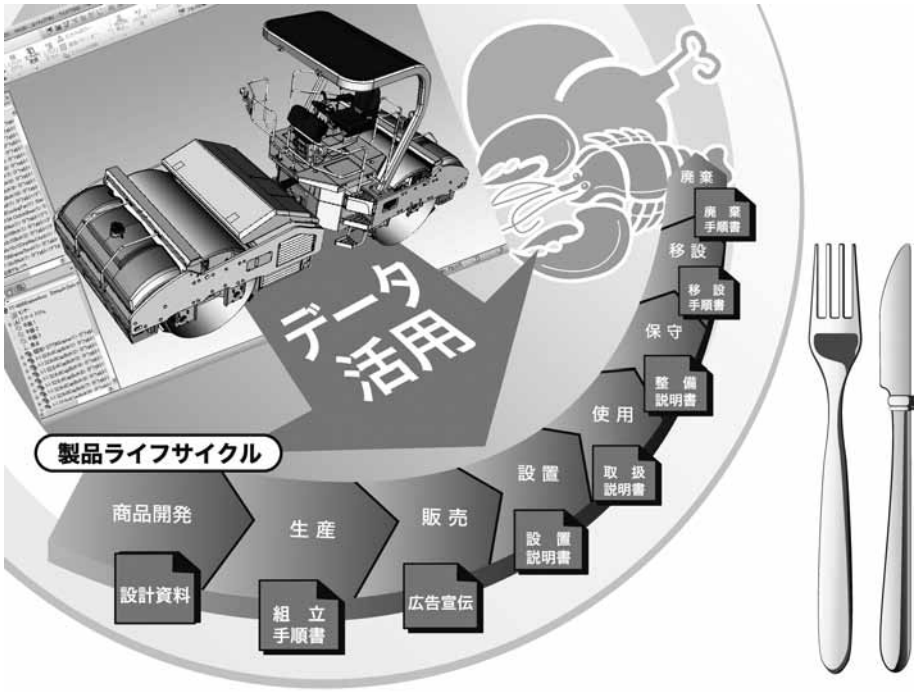
■ディスカッションのポイント

- 製品ライフサイクルにおける、開発・生産・販売・使用・保守・廃棄の様々なシーンでの活用
- イラストやアニメーションのマルチユース
- 製品リリースサイクルの短縮
- ドキュメンテーションの効率化

■ディスカッションの流れ

実際に 3D データを活用してマニュアルなどのドキュメントを制作している事例を紹介する。メリットとして、試作前から着手可能になることでのリードタイム短縮や、写真では撮影不可能なアングルの確認ができる点などがあるが、逆にイラストの品質低下の原因ともなっている事実もある。そのような状況で、３D にあった表現とは何か？

また、３D データの活用により、効率化や改善された点や、逆に苦労した点なども紹介したい。



パネルディスカッション

ディレクション
ライティング

09 事例集で UX を提供する

ユーザーのあんなことしたい、こんなことしたいを事例にする

コーディネーター

高橋　慈子
（株）ハーティネス

パネリスト

HA Ji-young
HansemEUG Inc.

有田　祐子
富士ゼロックスアドバンストテクノロジー（株）

木谷　千鶴
タイガー魔法瓶（株）

企画担当者

石井　純生
（株）石田大成社

松本　和久
（株）石田大成社

▲日英同時通訳あり▲

■ディスカッションの趣旨

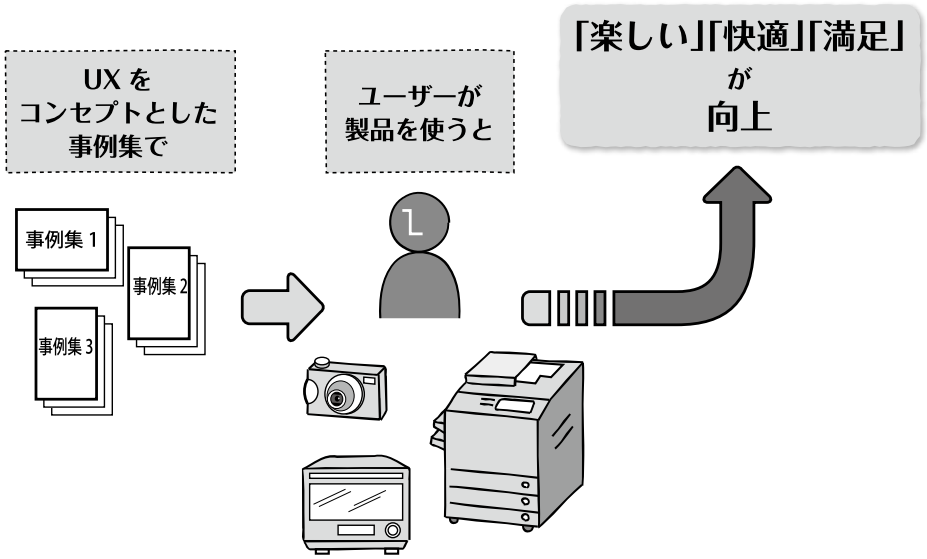
今回の TC シンポジウムのメインテーマは「ユーザエクスペリエンス」。
どんなに優れた製品でも、使ってもらえなければ、「楽しい」「快適」「満足」といったユーザエクスペリエンスは生まれない。
ユーザーを質の高いエクスペリエンスに導く 1 つの手段として、「事例集」を活用してはどうか。
すべての機能の説明や注意事項を記載するユーザーズマニュアルに対して、事例集は補足的な存在である。
このため、ルールにとらわれずに、さまざまなアレンジを加えることでユーザーを有意義なエクスペリエンスに導くことができる。
反面、補足的な存在であるために、メーカー側も予算化が難しいと思われる。
本パネルでは、実際の事例集をもとに、どのようなコンセプトで作ったのか、また、予算化に向けてどのようなプレゼンテーションを行ったのかなどを紹介していく。

■ディスカッションのポイント

- マニュアルとしての事例集の役割
- ユーザエクスペリエンスを目的とした事例集のコンセプト
- 予算化を見据えた企画のポイント
- ユーザエクスペリエンスに導く制作上の工夫

■ディスカッションの流れ

1. コンセプトを含めた事例集の紹介
2. 予算化するための企画の考えかた
3. 事例集の効果
4. 事例集と UX の関係（まとめ）



パネルディスカッション

アプリケーション
情報提供

10 FrameMaker はどこへ行くのか？

その来歴・特性を確認しながら今後の可能性を考える

コーディネーター

黒田　聡
（株）情報システムエンジニアリング

パネリスト

Kapil Verma
Adobe India

Tom Aldous
Adobe India

加藤　徳義
アドビシステムズ（株）

矢内　英彦
（株）ナビックス

企画担当者

西村　進
（株）パセイジ

▲日英同時通訳あり▲

■ディスカッションの趣旨

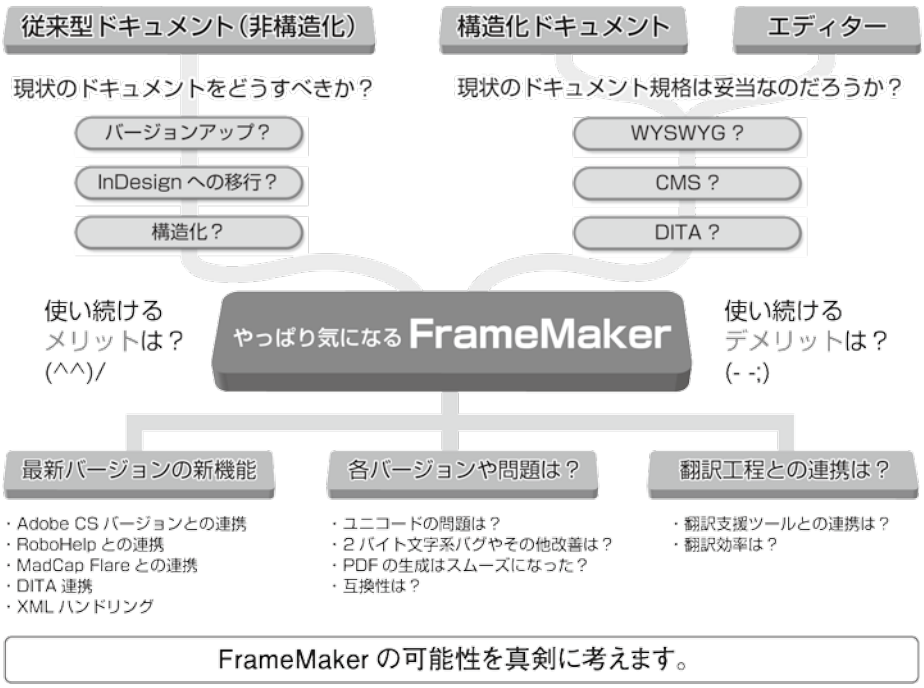
もとはと言えば主に論文作成のために開発された FrameMaker は、パッケージ製品として発売されてから既に四半世紀を経過していながら、TC の世界では今日でも幅広く活用されているアプリケーションである。Adobe 社の協力も得ながら、これまで TC 協会としては積極的に取り上げてこなかった FrameMaker を、TC シンポジウム史上初めてパネルディスカッションの形態で取り上げる。

■ディスカッションのポイント

来歴を含めてこのアプリケーションの特性を確認する。Ver.6 までと ver.7 以降、さらに ver.10 の新機能を紹介しながら、FrameMaker 向きの仕事とそうではない仕事に一定の指標を提供する。さらに CMS との連携の可能性も含めて、実務上の疑問・問題について user、audience と意見交換を行う。

■ディスカッションの流れ

1. 来歴とその特性を紹介する (InDesign との比較も含めて)
2. それぞれのバージョンで処理できる内容を確認する
3. CMS との連携を視野に入れながら、翻訳ツールとのコラボレーションを考える
4.「構造化文書」作成ツールとしての可能性を検討する
5. 総論として、FrameMaker の将来を展望する



特別セッション

TC 概論
TC 理論

01 テクニカルコミュニケーターの理論武装

講師

森口　稔
フリーランスおよび京都外国語大学非常勤講師

■プロフィール
米国 Southern College of Technology 修士課程で TC を専攻。語学教師、雑誌記者、機械翻訳システム辞書開発担当、英語辞書執筆者、テクニカルライター、産業翻訳者など、言語とコミュニケーションに関わる様々な職種を経験。現在、TC 協会評議員、日本コミュニケーション学会関西支部長、テクニカルコミュニケーション学術研究会代表、テクニカルライターの会企画運営委員を務める。

企画担当者

畝本　あい子
（株）島津製作所

形式

講義

定員

30 名

■講義の趣旨

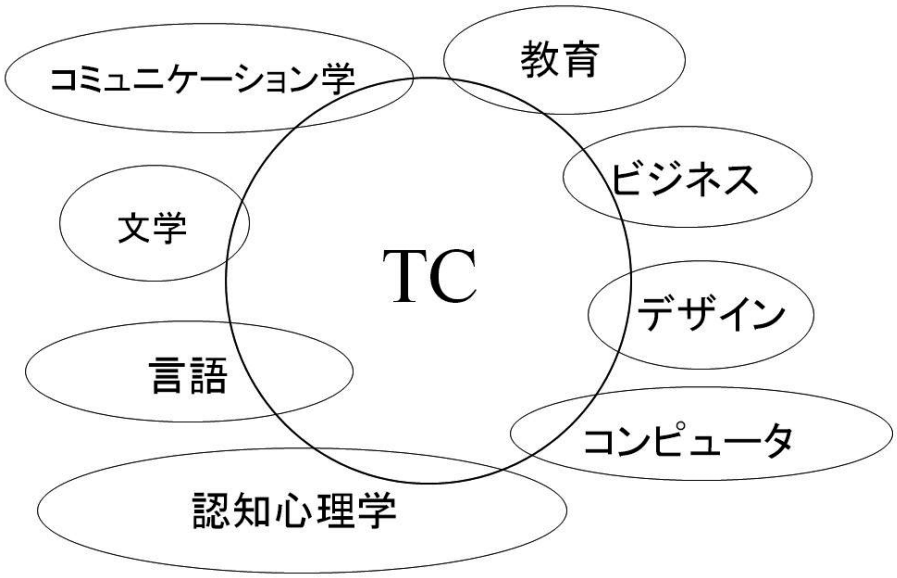
TC 関連の仕事をしていると、「テクニカルコミュニケーションって何？」と聞かれることがある。また、「わかりやすい文章が書けるようになりたいけれど、どうすれば良い？」という質問もあるかもしれない。それに対し、瞬時に明快な答えをすることができるだろうか。このセッションでは、そういった疑問に答えるために、TC の全体像を俯瞰し、関連領域にも触れながら、TC の理論的枠組みを考える。

■講義のポイント

まず、TC の定義について、TC 先進国である米国における考え方を見た後に、一つの案を提出する。次に、コミュニケーション学をベースにコミュニケーションとしての TC の位置づけを明確にする。さらに、「わかりやすさ」の基本である Audience Analysis について詳細に解説し、最後に、言語学などの周辺分野において、テクニカルコミュニケーターが知っておくべき概念を紹介する。

■講義の流れ

1. TC の定義
2. コミュニケーションとしての位置づけ
3. わかりやすさのストラテジー
4. 言葉についての基礎知識



特別セッション

ライティング

02 リライトビフォーアフター

講師

清水　義孝
（株）クレステック

■プロフィール
制作会社に 20 年以上勤務。この間、常に新しいマニュアルの企画・開発に関わる。『マニュアル制作ディレクション』『トリセツのつくりかた制作実務編』（いずれも TC 協会編著）の制作に参画。企業セミナー多数。

企画担当者

石川　秀明
ヤマハ（株）

形式

講義（事例紹介を含む）

定員

50 名

■講義の趣旨

リライトと呼ばれる作業の幅は広い。仕様の変更に伴う加筆・修正から、全く違った設計のもとに書き直す作業まで含まれている。校正の反映レベルから、新しい使用説明の制作までが、リライトと呼ばれている。ゆえに、リライトの効果的を上げるには、リライトの目的を明確にし、リライト前の使用説明から設計思想を正確に読み取らなければならない。目的に応じて、新しい設計が必要になることもある。

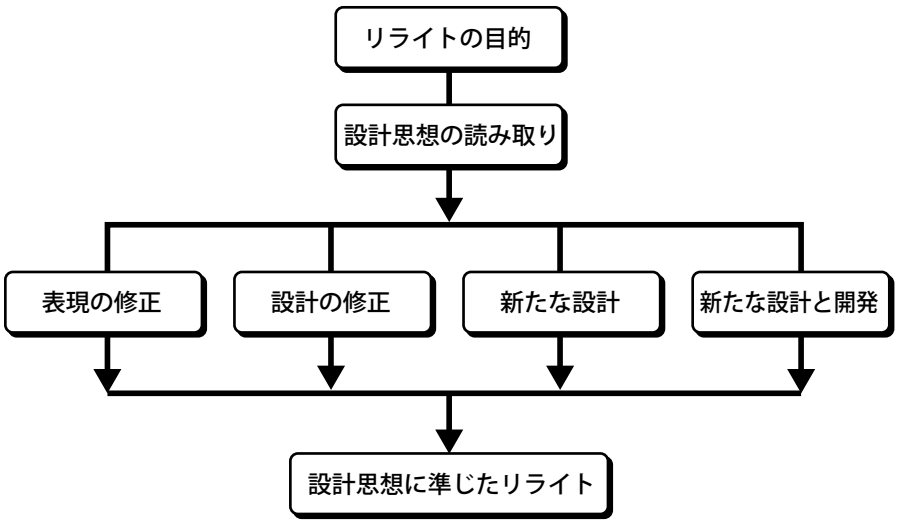
■講義のポイント

効果的なリライトを、作成を使ったビフォー／アフターによって理解してもらう。

- よりわかりやすい表現へのリライト
- ページ削減を目的にしたリライト
- 紙から電子メディアへ媒体を変更するためのリライト

■講義の流れ

リライトの作業概要を説明し、作例によるビフォー／アフターで効果を確認する。ライティング実務者はもちろん、使用説明を企画するディレクターにも役に立つセッションである。



京都開催 特別セッション

特別セッション

イラスト

03 イラストで伝えるおもてなし

効果的なテクニカルイラストを生み出すためのアプローチ

講師

久保　拓也
（株）情報システムエンジニアリング

■プロフィール
2002 年（株）情報システムエンジニアリング入社。
入社時からサービスマニュアル、取扱説明書をはじめとするテクニカルイラスト制作を担当する。ドキュメント制作全般に関するディレクション、多言語対応におけるテキストに依存しない表現の研究・実践なども行っている。

企画担当者

福間　俊治
（株）パセイジ

形式

講義

定員

30 名

■講義の趣旨

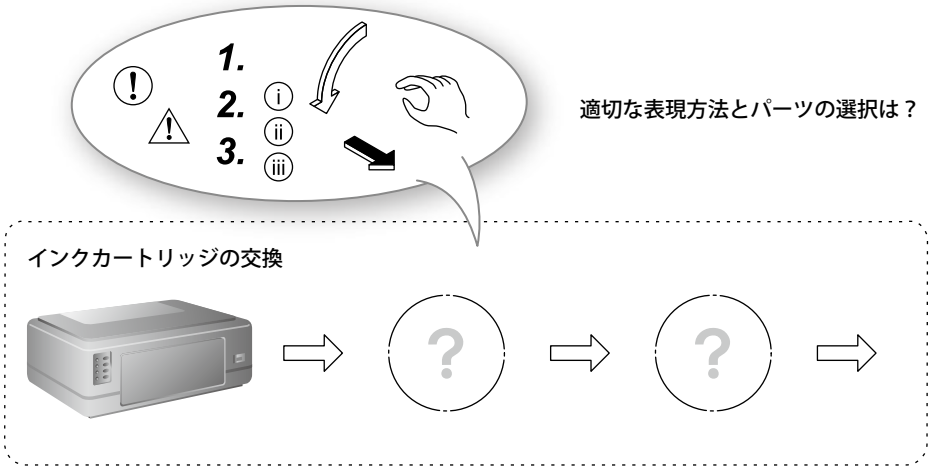
「ここのイラスト、あの○○○マニュアルの△ページを流用しておいて！」
このような会話、使用説明の制作現場で良く耳にする言葉ではないだろうか？
過去の資産とノウハウが蓄積されたことにより特定パターンでの対応が増えた結果、作成するテクニカルイラストそのものへの取り組みは自然と少なくなる傾向になりつつある。
閲覧環境が大きく変化する昨今において、読み手の目に入った瞬間にその品質を直感的に判断されるテクニカルイラストは、的確な情報提供の役割を果たすとともに、読み手をもてなす作り手の思いを伝えていると言っても良いのではないだろうか。
使用説明の中で用いられるテクニカルイラストをセオリーとテクニックの両側面から見つめ直すことで、製品ユーザーへより良い情報を提供するための 1 歩を踏み出せればと考える。

■講義のポイント

テクニカルイラストは、いくつかの要素に分解することができる。それらの個々の役割、組み合わせて用いたときの役割と効果を体系化することで、最適なテクニカルイラストを作成することが可能になる。あたりまえのように用いている個々のパーツに対しても改めて目を向けてみることで、その影響力を考え直す機会にもなるだろう。
製品ユーザーの視点を基準に表現方法と描画方法を選択したうえで、それを実現するためのツールテクニックを合わせ持つことにより、効果的なテクニカルイラストが生まれる。制作現場における作業効率を考慮しながら、どの部分に力点をおくことで効果的な作業フローとアウトプットを構築できるのかを追求する。

■講義の流れ

このセッションでは、既存の使用説明で多く使われている「テクニカルイラストを含むコンテンツ」を例に、それぞれの要素が果たす役割を整理・体系化して、場面に応じた様々な表現方法へのアプローチを解説する。
また、テクニカルイラストを作成に用いる各種素材データ（写真、図面、3D CAD など）と組み合わせた制作ツール（Illustrator、Photoshop など）の活用方法を、実際のオペレーションを交えて紹介する。



※キャラクターイラストに関する内容は対象外としています。

特別セッション

ユーザエクスペリエンス

04 UX デザイン方法について

京都開催 特別セッション

講師

山岡　俊樹
和歌山大学 システム工学部
デザイン情報学科 教授
学術博士 認定人間工学専門家

■プロフィール
千葉大学工学部工業意匠学科卒業後、千葉大学大学院自然科学研究科博士課程修了。
企業で人間工学、製品開発、工業デザインを推進し、ISO、TC159（人間工学）の委員他も担当。
応用人間工学とデザインの視点からシステム・製品開発方法や人間中心設計方法でもあるヒューマンデザインテクノロジーを提唱。

企画担当者

栗谷　裕哉
（株）日立製作所

形式

講義

定員

30 名

■講義の趣旨

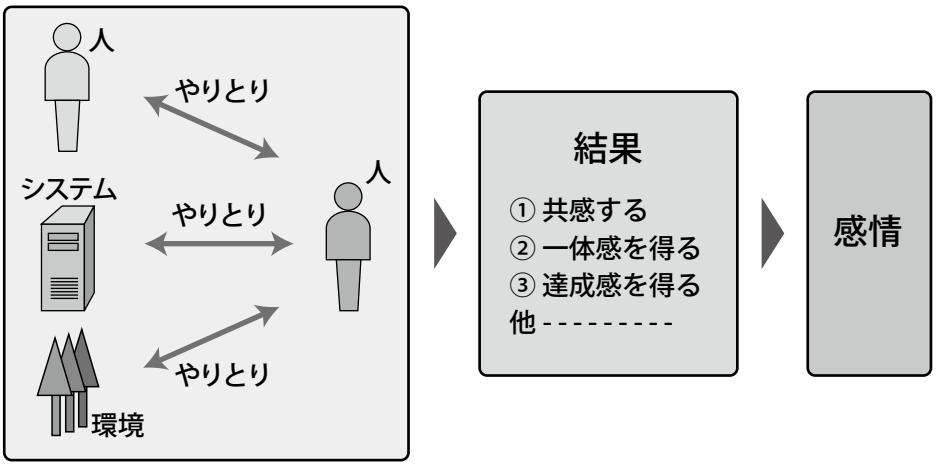
ユーザエクスペリエンス（UX）とは何かを定義し、UX をどのようにデザインするか、実現した UX をどのように評価するかについて説明する。

■講義のポイント

- 人間特性の観点から、身の回りにある UX の事例も取り上げながら、UX のデザイン方法について説明する。
- 人間工学、認知科学、工業デザイン、ユーザビリティ工学、マーケティング・リサーチ、多変量解析などを統合化し、人間優先の観点から企画・デザイン・評価を支援するシステム・製品開発方法を紹介する。

■講義の流れ

1. 時代の流れ（パラダイムシフト）
2. UX の定義
3. UX の構造
4. UX を論理的、構造的にデザインする
5. UX を評価する
6. UX をマネージメントする
7. 身の回りにある UX 事例



特別セッション

ライティング
企画立案

05 テクニカルライターのための HTML5 超入門

ソーシャル＆マルチデバイス時代の新常識

講師

黒田　聡
（株）情報システムエンジニアリング
矢野　りん
バイドゥ（株）

■プロフィール
北海道足寄町生まれ。デザイナー／ライター。「日本 Android の会」会員。情報処理学会デジタルドキュメント研究会メンバー。

企画担当者

吉川　明
（株）日立テクニカルコミュニケーションズ

形式

講義

定員

30 名

■講義の趣旨

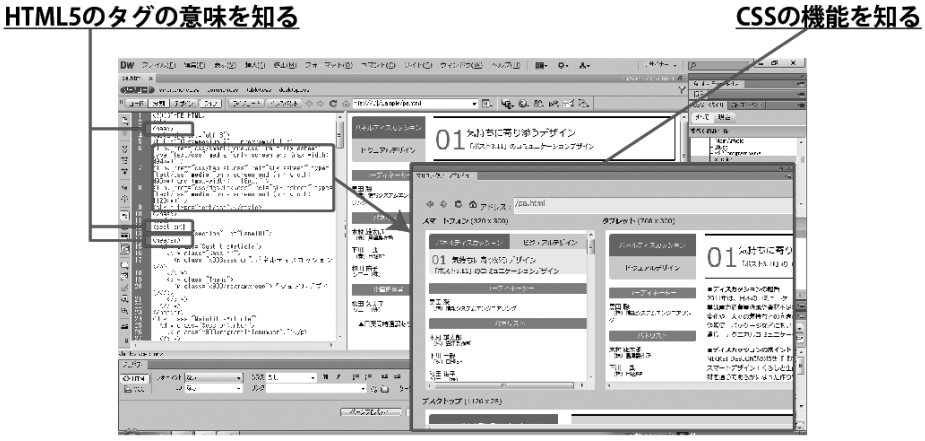
使用説明を提供するメディアやデバイスが多様化するこれからの時代に、制作基盤として注目を集めているのが HTML5 である。使用説明の企画をするに際しても原稿執筆するに際しても、紙媒体の場合に DTP の概念や基本を知っている必要があるのと同様に、これからは HTML5 を知っておく必要がある。難解になりがちなこのテーマを、直接 HTML コーディングをすることは必ずしも想定しない方々を対象に、ソーシャル＆マルチデバイス時代の新常識として解説する。

■講義のポイント

基本概念の解説は、企画工程で必要な水準で行う。HTML5 には様々な機能要素があるが、本講義の対象を、ライターが原稿を書くときに必要となる範囲に絞り込み、その画面表示イメージを確認しつつ学習できるよう解説する。また、注目され始めているソーシャルメディアにむけたテキストベースのコンテンツ執筆の可能性と、その実現に必要な HTML5 の知識にもフォーカスする。なお、本セッションでは機能開発やアプリ開発に関する技術は取り上げない。これらに興味がある方は東京開催の特別セッション 04「HTML5 で作るマニュアルアプリケーション」に参加していただきたい。

■講義の流れ

1. マークアップ技術は古くて新しい技術だ
2. XML、HTML、CSS の役割を知ろう
3. ソーシャル＆マルチデバイス時代に欠かせない新技術 HTML5 を学ぶ
4. 事例で学ぶソーシャルネットワークの俎上に乗るコンテンツ作りと HTML5
5. コンテンツ制作者の役割、ワークフローはこう変わる！



WYSIWYG編集を実現するDreamweaver CS6を活用して、分かりやすく解説

特別セッション

ビジュアルデザイン
企画立案

06 実践インフォグラフィックス（実習編：ワークショップ）

図解のための思考術

京都開催 特別セッション

講師

木村　博之
（株）チューブグラフィックス

■プロフィール
（株）チューブグラフィックス代表取締役。千葉大学工学部非常勤講師および東洋大学ライフデザイン学部非常勤講師。近著に「インフォグラフィックス」（誠文堂新光社刊）。

企画担当者

清水　義孝
（株）クレステック

吉川　明
（株）日立テクニカルコミュニケーションズ

形式

講義、ワークショップ（実習）

定員

30 名

■講義の趣旨

パネルディスカッションで実施される「実践インフォグラフィックス（理論編：パネルディスカッション）」と連動した特別セッションとする。（本講座受講者は聴講必須）前段のパネルセッションで理論的背景を理解してもらい当講座ではワークショップ形式で事前課題＋グループワークを主体に実際のインフォグラフィックス技術を学習する。

■講義のポイント

当日の実習では、見栄えよりもテーマをまとめる考え方（コンセプトワーク）を主体に図解の設計図にあたるラフスケッチ検討と制作を通じてインフォグラフィックス技術を学習してもらう。また、グループワークを通じ「ユーザー体験」の気づきと多様な視点、図解に必要なコンセプトと優先順位の視点を理解してもらえるようにする。

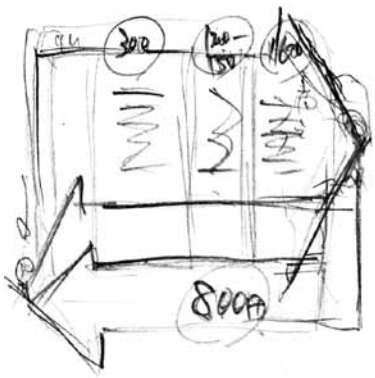
■講義の流れ

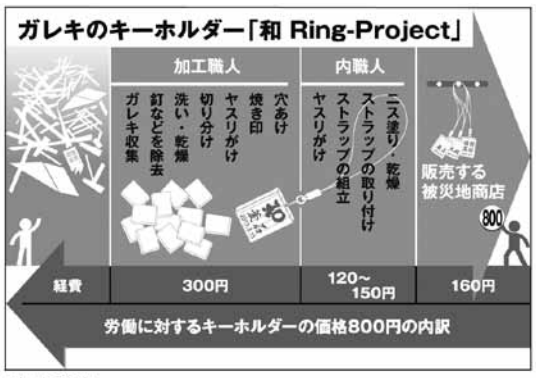
【事前準備】

1. Workshop 登録時に出題する事前課題
   京都に関する 3 つのテーマ（寺：清水寺、食べ物：京漬け物、遊ぶ：舞妓さん）から各自テーマを選択して調査、資料収集し図解のラフスケッチを作成し当日持参する。
2. 実践インフォグラフィックス（理論編：パネルディスカッション）：聴講必須
   インフォグラフィックス技術の技術的背景を学習し各自の制作物を参照してみてください。

【受講講座での流れ】

1. グループワークによる「ユーザー体験」の気づき
   - 事前課題のテーマ別にグループ分け（3名程度）
   - 各自内容をグループ内に説明（各自）
   - 相互に理解できたかをディスカッション
   - 他グループとの相互比較
2. インフォグラフィックスを制作する上でのポイント解説（ピックアップ事例での改善、模範解答）
3. 各自の事前課題をブラッシュアップ（講師が巡回します）
4. 実習後のラフスケッチの講評（参考となるものをピックアップ？）





ソトコト 2012.7

プレゼンテーション

01 Author-it のご紹介

トピック指向文書作成・管理・出力の新製品

発表者
本多　利光
アイ・ディー・エー（株）

「Author-it Cloud 6」（オーサイット・クラウド 6）は、Author-it Software Corporation(本社ニュージーランド) が開発した、トピック指向のオーサリング・コンテンツ管理・パブリッシングの統合ソフトウェアです。
欧米を拠点とするグローバル企業を始め、3500 社以上の導入実績があります。
多言語ドキュメントの制作・管理で問題を抱えている、マニュアルご担当者、海外販促ご担当者は「Author-it Cloud 6」によって、多言語の多様なドキュメントを一元的に管理・制作することができます。

■「Author-it Cloud 6」の主な特長と利点

- トピック指向オーサリング、コンテンツ管理、パブリッシングが一つに統合されています。
- 一か所の変更作業で、共通する全てのコンテンツを瞬時に更新できます。
- 既存コンテンツの再利用が最大限に行えます。
- 国内・海外の複数拠点から同時アクセスによる協働が可能です。
- Microsoft Word 同様の直観的な UI が備わっており、XML の知識が無くても、誰でも操作できます。
- 同一コンテンツを PDF、ヘルプファイル、WORD、PowerPoint、HTML、XML など多様な形式、レイアウトに出力可能です。
- 視覚的な進捗管理とユーザー権限設定機能。
- 修正履歴の保存機能。
- 多言語対応の翻訳管理機能（Trados との連携も可能）。

他

02 DTPスキルをWebスキルに移行しよう！

Adobe Creative Suite 6 の活かし方

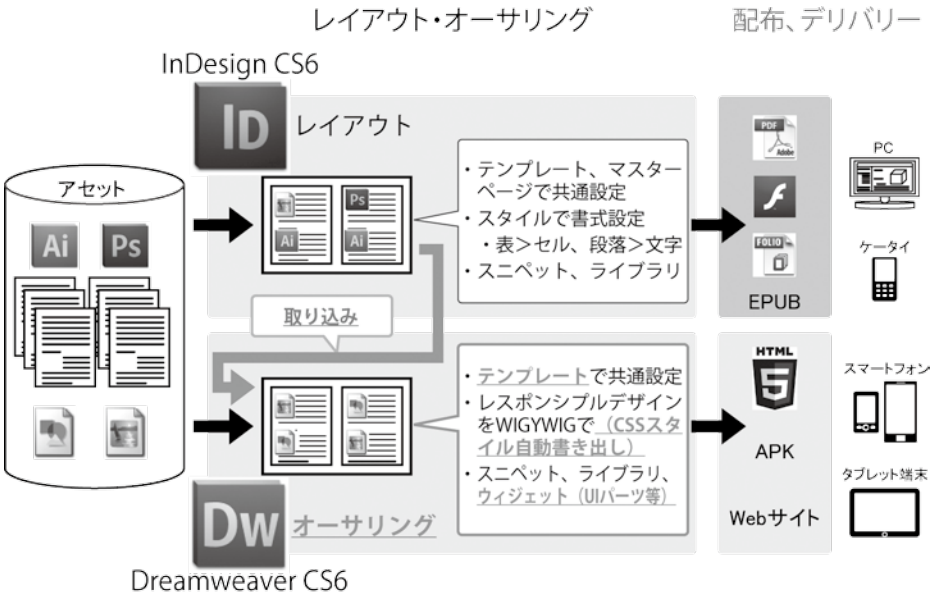
発表者

阿部　成行
または
西山　正一
アドビ システムズ（株）
若山　陽介
（株）情報システムエンジニアリング

昨年の TC シンポジウムのプレゼンテーションセッションでは、シンポジウムのプログラムをスマートフォン、タブレット端末向けコンテンツに変換するプロセスを紹介。InDesign CS5.5 でレイアウトしたデータを html 書き出し、Dreamweaver CS5.5 に取り込んでマルチスクリーン対応させるソリューションを提案しました。昨年の段階では CSS3 の知識がある程度必要で、しかも手作業でタグを追加する必要もありました。

しかし、今年 5 月にリリースされた Adobe Creative Suite 6 に含まれる Dreamweaver CS6 では、WISYWIG で「レスポンシブル」なデザインが検討できるようになっています。Web 用途への機能が強化された InDesign CS6 と連携させることで、レイアウト・オーサリングのワークフローがさらに強力になりました。新登場アニメーション作成ツール Edge などと組み合わせることで、従来 Flash で作成していた Web 向けのコンテンツまでもそのターゲットに含めることが可能となっています。
Web 系ツールへの入り口として Adobe Creative Suite6 をご活用いただき、スマホ・タブレット端末時代に対応した新しいタイプの使用説明情報の企画や作成のお役立ていただければ幸いです。

この商品紹介セッションは、TC 協会創設 20 周年記念イベントの特別企画セミナー「スマホ・タブレット端末時代のマニュアル制作環境はどうなる！？」の内容を掘り下げ、具体的なサンプル、ワークフロー、オペレーションなどを提示しながらツールの機能を詳しく紹介するものです。



プレゼンテーション

03 “ロングテール”言語

新興国の希少言語への対応戦略

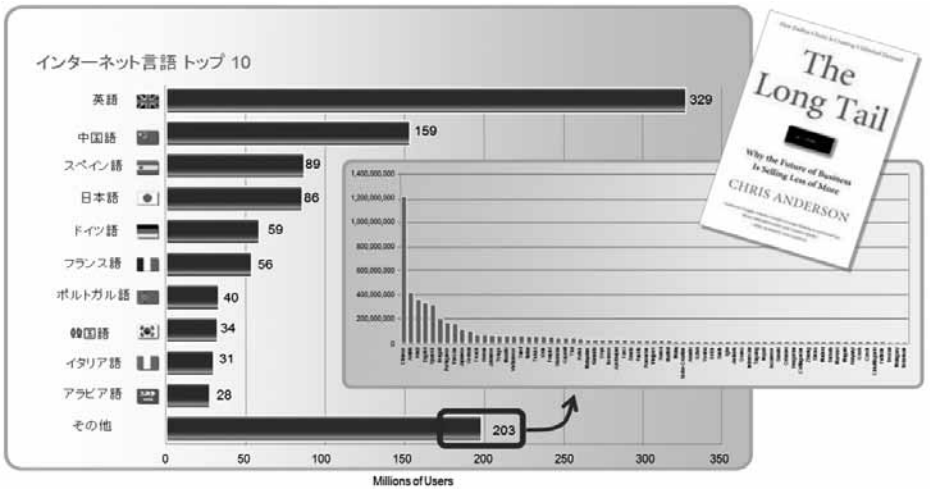
発表者

塚田　正郎
ライオンブリッジジャパン（株）

ローカリゼーションの世界で、FIGS（French, Italian, German, Spanish）と言っていたのは遠い昔、昨今の新興国の目覚ましい発展によりローカライズ対象言語は飛躍的に広がりました。Thomas L. Friedman のベストセラー「The World is Flat」から 7 年、Byte Level Research の毎年の「The Globalization Report Card」レポートで、サイトが展開されている言語の“平均”数が 20 言語を超えてからすでに 5 年が経過しました。Top 10 のサイトでは、対応言語数は 40 言語を優に超えています。

スペイン語などの類似言語（European Spanish と Latin Spanish）、東欧言語、中国、韓国以外のアジア言語、さらにはインドの現地語など、どこまで対応するべきか企業のローカリ担当者は頭を悩ませているのではないでしょうか？

ロングテール言語とは、弊社で定義している概念であり、ロングテール理論を言語の世界に当てはめると、新興国の小数希少言語を意味しています。
このプレゼンテーションでは、これからの言語展開を考える上で基礎となる、ロングテール言語についての情報とライオンブリッジの取り組みをご紹介します。



04 ProofChecker PRO と pdfToolbox のご紹介

2 種のツールで効率よく正確なデータ作成を

発表者

前田　政俊
（株）Too

PDF に関する 2 種類のソフトウェア、ProofChecker PRO と pdfToolbox のご紹介をさせていただきます。

Proof Cheker PRO は、校正前後の PDF での正確かつ綿密なデジタル校正を実現します。

特に、旧版からの新版作成や、多カ国語版のマニュアルの制作現場でご利用いただいております。

ソフトウェアの機能紹介と期間限定で利用したい、複数本を一年間だけ利用したい等の校正現場の様々なご要望にお答えする、新製品　仮称　Proof Chekcer PRO のレンタルサービスをご紹介させていただきます。

pdfToolbox は、ドイツで開発された PDF 編集ツールです。その技術力の高さは Adobe 社にも認められ、AdobeAcrobat にプリフライトなどの機能をライセンス提供しています。PDF データの編集をより簡単に実現できるツールです。

プリフライトチェック機能だけでなく、簡単な操作で OFFICE ファイルから印刷用 PDF にすばやく変換し、印刷、Web 用など、様々な用途に使用される PDF を最適化する方法などをご紹介いたします。

プレゼンテーション

05 和文校正支援の定番ツール！

InDesign/Acrobat で Just Right! をフル活用

発表者

関　雅代
（株）情報システムエンジニアリング

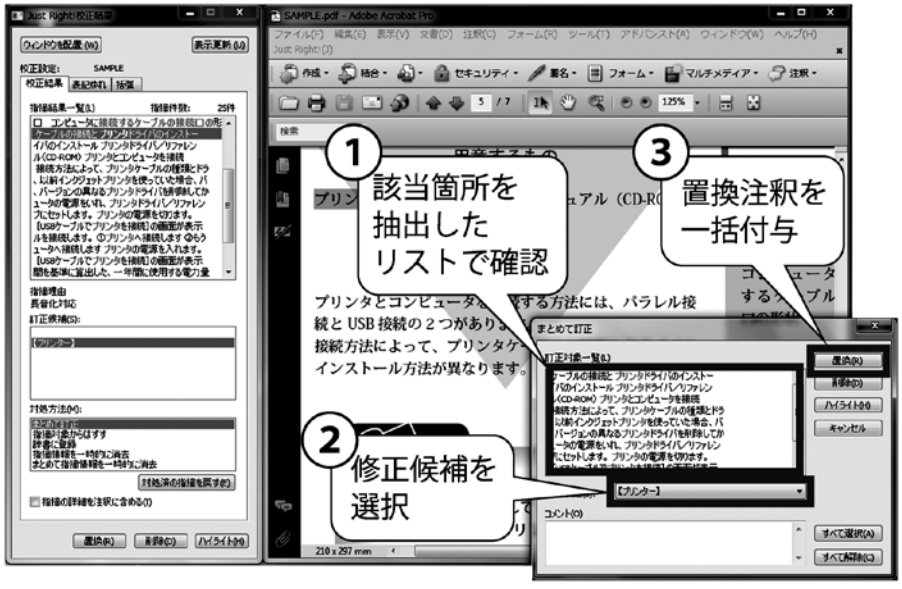
「Just Right!」は、誤字脱字、表記ゆれ、あいまいな修飾表現などを幅広くチェックできる和文校正支援ツールです。校正辞書をカスタマイズして、独自のチェック項目やルールで校正することが可能です。用語統一にも活用できるので、翻訳品質管理を目的とする翻訳元和文原稿のテクニカルタームの統一に効果的です。

この Just Right! を、InDesign や Acrobat から直接使えるようにしたのが「Just Right! 連携プラグイン」です。連携プラグインを使うことで、InDesign データや PDF に対して、直接校正作業がおこなえるようになります。

文章校正後の指示書作成、修正指示の反映、そして反映チェックの工程でも、連携プラグインを使えば、一括注釈付与、一括反映、一括チェックがおこなえるので、一項目ずつ、一箇所ずつおこなっていた注釈付与や修正反映の時間をぐっと短縮することができます。しかも、該当箇所をきちんと確認した上での一括処理なので、不要な変更を加えてしまう心配もありません。
また、修正内容をあらかじめ校正辞書に登録しておけば、選択するだけで修正入力できるので、指示ミスや反映ミスを防ぎつつ、作業の手間を省くことができます（下図参照）。

今回の発表では、連携プラグインを使った制作作業効率 UP の実例をご紹介します。

- 誤字脱字の検出や表現統一に活用する
- テクニカルタームの統一に活用する
- PDF を利用した校正作業に活用する
- スタイルガイドの組織的運用を実現する（応用例）　ほか



例：「プリンタ」の長音化対応指示をまとめて注釈付与

06 FrameMaker 関連情報発信第 2 弾：FrameMaker と RoboHelp の最新情報

発表者
加藤　徳義
アドビシステムズ（株）
Saibal Bhattacharjee
Adobe Systems
Tom Aldous
Adobe Systems

アドビのテクニカル・コミュニケーター向け製品の最新情報をご紹介いたします。
誕生して 25 年を超える FrameMaker、20 年を超える RoboHelp は、世界の多くのユーザー様にご利用いただいていますが、時代の変化に対応して、ますます進化を続けています。
FrameMaker は、最新の XML/DITA1.2 をネイティブにサポートし、構造化された XML コンテンツを制作できるとともに、Microsoft Word などで過去に作成され蓄積されてきた非構造化文書を構造化した XML コンテンツに簡単に移行することができます。
また、役割ごとのユーザー視点での見やすさ、使いやすさを追求しています。
レビュー用 PDF の作成や連携、RoboHelp とのシームレスな CMS との接続も用意されていますので、企業やチームの生産性向上に役立ちます。
ヘルプ作成とパブリッシングのツールである RoboHelp 最新版では、最近急速に拡大している各種のモバイルデバイスへのパブリッシングにも対応します。また、作成済みの従来のヘルプを、ソーシャルメディアにつながれた次世代のユーザー支援に変換する強力な機能も用意されており、シングルソース化を加速できます。
複数の作成者や複数のレビュアー間でのワークフローを合理化して、生産性の向上、市場投入期間の短縮が期待できます。
当セッションでは、アドビの製品開発部門より、製品開発責任者が来日して、詳細をご紹介させていただく予定です。

プレゼンテーション

07 テクニカル・コミュニケーション・スイート最新版を利用して生産性を向上

発表者

加藤　徳義
アドビシステムズ（株）
Saibal Bhattacharjee
Adobe Systems
Tom Aldous
Adobe Systems

Adobe Technical Communication Suite には、XML/DITA の構造化文書や非構造化文書のオーサリングツールである FrameMaker、ヘルプ作成やさまざまなメディアやデバイスへのパブリッシュができる RoboHelp、動画などでドキュメントに魅力を与える Captivate、高度なドキュメント作成ツールの Acrobat X Pro をはじめとする各単体製品がツールキットとしてまとめられており、お買い得な価格設定になっております。

このスイートは、単なる単体製品の詰め合わせにとどまらず、テクニカル・コミュニケーションの生産性向上に寄与する製品間の連携機能とワークフローが強化、追加されています。

先進的な各機能と連携の実際をご紹介しながら、構造化 XML/DITA 1.2 に対応し、マルチメディアを駆使した魅力的なドキュメント作成から、チームでの効率的で最少投資を可能にするレビュープロセス、シングルソース・マルチデバイス・パブリッシングにいたるまで、全体にわたっての高い投資効果を期待できます。

当セッションでは、アドビシステムズ・プリントアンドパブリッシング事業部より、製品開発責任者が来日して、実務に役立つ製品情報をご提供させていただく予定です。

08 軽量 3D データ XVL で効率的にイラスト作成

3D データから高品質イラスト作成、大幅なコスト削減を実現

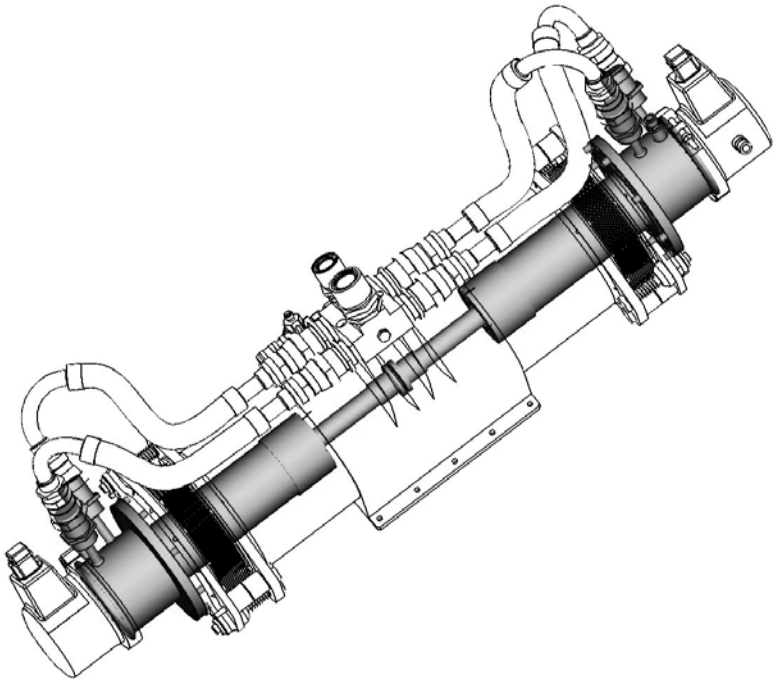
発表者
清川　舞
ラティス・テクノロジー（株）

従来、テクニカルイラストの作成は実物の試作品や試作品の写真などを材料に、ドローイングソフトで作成されていました。しかし、この作業には十分なスキルと、相応の工数が必要です。そこで、最近では設計部門の CAD データを利用し、その 3D 形状からイラストを短時間で作成すること方法が普及しつつあります。これは、3D CADの一般化に伴い、3D データが流通するようになったからです。

ところが、イラスト作成部門で CAD データを利用するには、① CAD システムの導入コストが増える、②大容量の CAD データは、イラスト作成部門が利用しているような PC で取扱うには負担が大きい、という致命的な問題があります。そこで、ラティスは製造業で普及する軽量 3D フォーマット XVL を利用することで、イラストを安価に、かつ、軽快に作成する方法をご提案します。

ラティスの XVL 製品では、3D CAD データから軽量 3D フォーマット XVL に変換した後、XVL の軽量性を生かして、一般的なノート PC でも 3D 形状を閲覧、イラスト用に編集することができるようになります。イラスト作成部門では CAD 導入コストを抑えながら 3D データを活用し、低コストで均質なイラストを、手軽に短時間で作成可能です。

一旦 XVL データにさえなれば、Microsoft Excel に取り込み、3D データと画像、表が連動した帳票を簡単な操作で作成することもできます。また、作成したイラストデータを利用した、パーツカタログ等を Web 上で共有、閲覧することも可能です。iPad での 3D 表示機能で、ペーパーレス環境を実現します。本セミナーでは、3D を利用したさまざまなドキュメントソリューションで、次世代のイラスト作成環境と、デジタルドキュメントの新しい可能性をご紹介します。



プレゼンテーション

09 多言語ドキュメント作成のスピードアップ、コスト削減

部品（モジュール）単位での編集による取扱説明書／整備解説書の製作効率化事例

発表者

竹内　一郎
クボタシステム開発（株）

奥村　真
MHI さがみハイテック（株）

本プレゼンテーションでは、ドキュメント作成システム「PROSPERAS」の概要と翻訳管理クラウドサービスを活用した多言語ドキュメント作成の効率化事例をご紹介いたします。

［当システムの特徴］

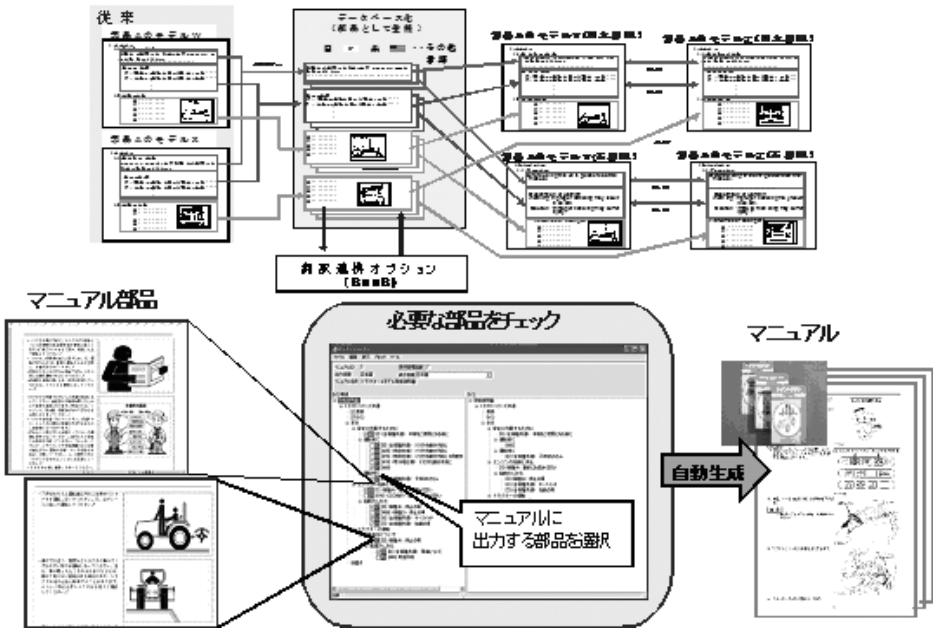
『PROSPERAS』は、製造業の取扱説明書／保守解説書などのコンテンツを効率よく作成するパッケージソフトです。“再利用できる部品として管理し、多くのドキュメントで共通利用する“ことで製作期間を短縮でき、素早く情報発信できます。また、作成コストが大幅に削減できます。

［問題解決例］

・個人の感性で作成していたため、ドキュメント毎にバラつきがあった。
　⇒部品化、ＤＢ化することでバラつきを防止。
・翻訳外注コストが多くかかっていた。
　⇒原文の変更部分だけを抽出し翻訳できるので、翻訳コストを大幅に削減。期間を短縮。
・複数マニュアルにわたる改訂作業に、多くの人件費を投入していた。
　⇒１回の修正で同一部品を使っているマニュアルを全て修正できる。

［類似ドキュメント製作の生産性向上と均質化の実現］

・兼用／流用できる単位でドキュメントを部品化
・部品を選んでマニュアルを生成
・原文／訳文の翻訳状況が対で管理できるので、原文が変わったところだけを翻訳
　→翻訳後、言語を切り換えて自動生成すれば翻訳マニュアルを生成



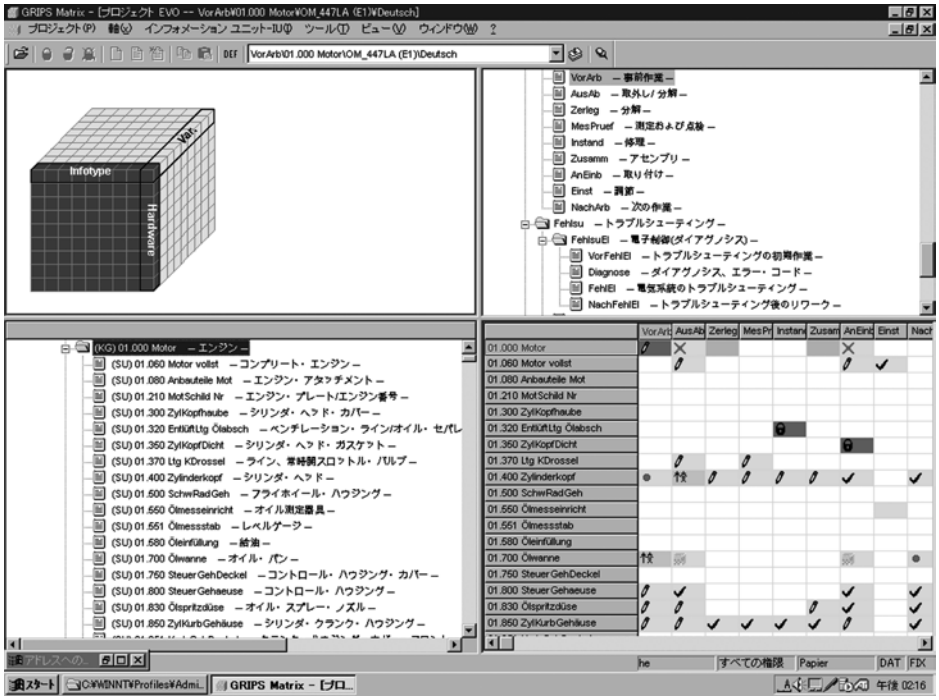
［事例紹介］

MHI さがみハイテック株式会社様における導入事例をご紹介させていただきます。
導入前の課題、解決策及び導入効果についてご紹介させていただきます。

10 統合情報管理システム - GRIPS

発表者
小倉　富規子
（株）シュタール ジャパン

今年の４月、ドイツ政府後援のドイツ中小企業イニシアチブより「IT INNOVATION PRIZE（IT 革新賞）」を受賞したシュタール社の GRIPS は、いわゆる CMS（コンテンツマネージメントシステム）とは一線を画す画期的な「統合情報管理システム」です。Unicode はもちろん、DITA などの文書制作の国際標準規格にも対応していているほか、オーサリングからメディア作成まで多言語ドキュメンテーションに必要な機能を網羅しています。言語やフォーマットを問わず自動的にレイアウトを生成し、出力・配信を行うため、配信実行の直前に変更を加えることも可能です。一段と強力になった翻訳支援ツール Transit NXT や翻訳プロジェクトのワークフロー管理システムである STAR James との連携によりドキュメンテーションのコスト削減、納期の短縮、品質向上を実現します。



tcworld Japan

事例発表

01 ユーザビリティ向上とコスト削減の両立を実現する

企業名

Electrosuisse Japan

発表者

Markus Aellig

▲日英逐次通訳あり▲

製品開発の段階からユーザー視点での参加。ライターとデザイナーの連携の強化。
これが、理解しやすく視覚的に訴求力のある説明書を創りだす秘訣です。
しかも、ユーザビリティの向上効果だけでなく、印刷や翻訳のコスト削減も徹底的に追求。
さらに、近年の IT 技術の進歩がこれらの工程改革と工程自動化の両立を可能にしました。
XML 技術を駆使した情報システムとの連携も可能です。
文字数をどのように削減できるのか、説明書の作成工程におけるユーザビリティテストの効果、そして工程の一部自動化を取り入れたワークフローを紹介します。

tcworld Japan

事例発表

02 リキッド・コンテンツをマスターする

企業名

Blonde

発表者

Chris Laska

▲日英逐次通訳あり▲

ドキュメント制作が大きく変動する中、顧客の期待に応じられるように、コンテンツを構造化し、管理していくことが現在の企業には求められています。
多面的なプロファイリングをリアルタイムに実現することで、個々のユーザーの特性に応じてウェブ上のユーザー体験を提供できるようになりました。
提供されるコンテンツは「リキッド」（即時性にすぐれ、柔軟で弾力性があること）なものへと変化し、印刷媒体から Web にいたるまで、アプリケーションやソーシャルメディアなどの多様な形態により、さまざまなチャネルで提供されます。
ユーザーエクスペリエンスを改善するにはどうすればよいでしょうか？　効果的なテクノロジーやパフォーマンス管理を実現する方法には、どんなものがあるでしょうか？　Blonde 社のビジネス事例を通じてリキッド・コンテンツのポイントを紹介します。

tcworld Japan

事例発表

03 機械翻訳：知識ベースとリアルタイムのチャットを活用する

企業名

Yamagata Europe

発表者

Heidi Van Hiel
Tiene Vertriest.

▲日英逐次通訳あり▲

現在では、誰でも、どこでも、いつでも、アクセス可能な情報が求められています。このような「どこでも、いつでも」モデルにおいては、翻訳のリアルタイム性や、時間短縮が求められることから、機械翻訳への注目が高まっています。
自動車産業のカスタマーサポート部門および修理センターでの事例を紹介し、機械翻訳の有効活用をお見せします。機械翻訳を導入した背景や目的、導入企業とランゲージサービスベンダーとの提携による品質評価、既存の IT インフラストラクチャーと機械翻訳システムの統合にあたって解決しなければならなかった課題などを説明します。

tcworld Japan

ツール紹介

04 複雑なドキュメント作成を SCHEMA ST4 で簡単にする

企業名

SCHEMA GmbH

発表者

Stefan Freisler

▲日英逐次通訳あり▲

皆さんのドキュメントは、ダイナミック（動的）で、相互に関連付けられ、製品ライフサイクルに連動しているでしょうか？　複数の言語での翻訳を必要としているでしょうか？　製品の違いを反映するため、ドキュメントでも対応を求められているでしょうか？　複数の伝達媒体に向けてドキュメントを提供しているでしょうか？　バージョンの異なるドキュメントを同時に管理しているでしょうか？　テキストのモジュール化を検討しているでしょうか？　ドキュメント制作を分業化し、製品の製造工程と連動した品質管理を求められているでしょうか？　これらの質問にひとつでもイエスと回答されたかたには、SCHEMA ST4 DocuManager が役立ちます。
SCHEMA ST4 DocuManager は、機械やプラント製造、エレクトロニクス、医療機器などの中規模メーカーを主な対象として、技術ドキュメントを編集する独創的なソリューションです。

tcworld Japan

ツール紹介

05 2D/3D のパーツカタログ電子化
シンプルなドキュメントの作成から e コマースの実現まで

企業名

TID Informatik GmbH

発表者

Rafi Boudjakdjian

▲日英逐次通訳あり▲

取扱説明書、メンテナンス資料、製品安全の資料などの作成に向け、2 次元および 3 次元のパーツカタログを提供するソフトウェアについてご説明します。
このソフトウェアから生成されるデータは、そのままドキュメントとして利用できるだけでなく、既存の ERP システムに対応する e コマースの受発注にも利用できます。

tcworld Japan

事例発表

06 Localization Maturity Model © および Operational Excellence の原理を用いて、次世代のローカリゼーション（無駄のない多言語対応）を実現するために

企業名

Welocalize Japan

発表者

Shinji Yoshitake
Antoine Rey

▲日英逐次通訳あり▲

ドキュメント制作のローカリゼーション工程における「無駄」とは、「コストをかけて実施される作業のうち、付加価値を生まないもの」と定義できます。貴社のグローバル組織（GPO）が Common Sense Advisory Localization Maturity Model © を Operational Excellence の原理と組み合わせて活用することにより、メーカーのドキュメント制作チームや翻訳サービスベンダーを強化する成熟モデルを進化させ、無駄を排除する方法についてご説明します。自動化テクノロジーにより利便性が高まり、その結果、コスト削減、制作期間の短縮、品質向上を実現した事例をご紹介します。

tcworld Japan

事例発表

07 「制約理論」（中東、イスラエル）と「トヨタ製造システム」（日本）を活用し、競争力を高める

企業名

Synergium of translations

発表者

Mindaugas Kazlauskas

▲日英逐次通訳あり▲

世界のグローバル化は、多くの企業にとって、競走の激化をもたらし、グローバルな対応力の強化をせまるものです。同時に、グローバル化によって他の国や産業から学び、独自の競争力を生み出すことができるといった利点も生まれています。

「トヨタ製造システム（TPS）」は、世界各国のメーカーに導入され、ジャスト・イン・タイムの納入方式を採用することで、製品価格の低下を実現しています。この考え方は、ヘルスケア、教育、金融など、他の産業分野でも導入が進んでいます。

tcworld Japan

ツール紹介

08 Acrolinx

ドキュメントのグローバル展開を支援する言語品質管理システム

企業名

Acrolinx K.K.

発表者

Hideo Yanagi

Acrolinx はテクニカルドキュメントの言語品質管理をサポートするシステムソリューション。日本語、英語に対応。

グローバル展開を視野に入れたドキュメント戦略で鍵となるのは、英語版ドキュメントのクオリティー。用語、表記、表現の統一がとられているか、英語ノンネイティブにとっても平易簡潔に書かれているか、多言語展開のソースドキュメントとして可訳性が考慮されているか、言語品質で留意すべきポイントは多い。日本語版では、英語への可訳性についてチェックする校正ルールも用意されている。

このプレゼンテーションでは、Acrolinx のシステム機能を中心に、グローバル展開を視野に入れたドキュメントクオリティーのあり方について紹介する。

tcworld Japan

事例発表

09 SCHEMA ST4：最先端のシングルソース・システム

企業名

SCHEMA GmbH

発表者

Stefan Freisler

▲日英逐次通訳あり▲

コンポーネント型コンテンツ管理を可能にする SCHEMA ST4 は、ドキュメントのオーサリング工程、パブリッシング工程を効率化するソリューションです。

コンテンツを最適化し、再利用、改訂管理、製品の横展開に向けた変更管理などの課題を解決する方法についてご説明します。

tcworld Japan

事例発表

10 Arancho Doc 社の概要紹介

詳細は後日、TC シンポジウム 2012 京都開催　tcworld Japan 2012 の HP で確認ください。

企業名

Arancho Doc

発表者

Alfredo Spagna

▲日英逐次通訳あり▲

tcworld Japan

事例発表

11 Comet 社の概要紹介

当社は、電子媒体と印刷媒体の両方で技術ドキュメント（取扱説明書、オンライン・ヘルプ、ユーザーガイド、インストールマニュアルなど）の企画、制作、翻訳サービスを提供しています。あらゆる角度からドキュメント制作についてのアドバイスを行い、個別のニーズに対応しています。技術ドキュメントについて、最新のトレンドやソリューションを学ぶことのできるトレーニングも各種用意しています。

企業名

Comet

発表者

Ms. Sissi Kloss

▲日英逐次通訳あり▲

tcworld Japan

事例発表

12 翻訳工程および関連のサプライ・チェーンに、クラウド対応の新世代翻訳システムが与えたインパクトとは

相互に接続された社会におけるクラウドシステムやモバイル機器がもたらした技術革新は、翻訳サービスの分野とも無縁ではありません。
それは、コスト、品質、納期のバランスをとるという、従来からの課題に根本的な影響をもたらしつつあります。
この発表では、Text United 社のプラットフォームによって、コスト削減および人間の翻訳期間短縮を品質向上と同時に実現した事例をご紹介します。

企業名

Text United

発表者

Marek Piorkowski

▲日英逐次通訳あり▲

京都開催 参加申し込み方法のご案内

テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2012【京都開催】に参加ご希望の方は、次の要領で「参加申込書」にご記入の上、FAX でお申し込みください。

入場券

2 日間の有効券で、基調パネルディスカッション、パネルディスカッション、
プレゼンテーション & 商品紹介展示、tcworld Japan に参加できます。

- 特別割引があります。TC 協会法人会員会社の社員は会員料金で参加できます。
  申し込みは会社単位または部署単位でまとめてお願いします。

特別セッション券

特別セッションに参加希望の方は、入場券と特別セッション券を購入してください。なお、特別セッション券のみの購入はできません。特別セッション券は特別セッションの座席指定を兼ねており、1 枚 1 講座です。

参加料金	TC 協会会員	非会員	学生
本開催 2 日間	15,000 円（非課税）	21,000 円（消費税込）	3,150 円（1 日消費税込）
特別セッション	10,000 円（非課税）	15,750 円（消費税込）	5,250 円（消費税込）

- 学生のみ 1 日単位の申し込みになります。定員オーバーの場合は、ご遠慮いただくことがあります。

参加料金の支払い方法

- 同封の郵便払込用紙を使って下記宛に振り込みをお願いします。なお、振込料は各自にてご負担ください。
- お支払いいただいた参加料金は事情を問わずお返しできませんので、ご了承ください。
- 郵便払込用紙表面の通信欄に参加者名（複数名でご参加の場合は代表者名）を必ずご記入ください。

口座番号 -00140--0-567682
加入者名 - 一般財団法人 TC 協会

お問い合わせ

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会
TEL：03-3368 -4607（月曜日～金曜日 10 時～ 17 時）
FAX：03-3368-5087

ホームページのご案内

http://www.jtca.org/symposium/

TC 協会のホームページの中に、TC シンポジウムのホームページを用意しました。TC シンポジウムの案内やプログラム内容など、情報を随時掲載する予定です。また、プログラムの変更などが発生した場合にはシンポジウム直前まで更新を続けます。どうぞご利用ください。

ご注意

特別セッションへの参加を希望される方は、参加申込書にご希望の特別セッション名（例 特 01）を必ずご記入ください。特別セッションについては、先着順で受け付け、定員になりしだい締め切らせていただきます。特別セッションを申し込まれた方には、「特別セッション券」を送付しますので、到着後に振り込みをお願いします。
プログラムの内容は変更される場合があります。ご了承ください。

京都開催 参加申込書

希望するものに印をつけてください。 特別セッションの参加には「入場券」に加えて「特別セッション券」が必要です。

1 代表者名（入場券などの送付先）

● □入場券のみ □入場券と特別セッション券（ ）枚

● **[特別セッションの方のみ記入]**（定員になりしだい締め切ります）

参加希望特別セッション名 10/4 特 -_____10/5 特 -_____

TC 協会 □会員 □非会員

参加予定をご記入ください ▶ □基調パネル □パ 01 □パ 02 □パ 03 □パ 04 □パ 05 □パ 06 □パ 07 □パ 08 □パ 09 □パ 10

2 参加者

● □ 入場券のみ □ 入場券と特別セッション券（ ）枚

● **[特別セッションの方のみ記入]**（定員になりしだい締め切ります）

参加希望特別セッション名 10/4 特 -_____10/5 特 -_____

TC 協会 □会員 □非会員

参加予定をご記入ください ▶ □基調パネル □パ 01 □パ 02 □パ 03 □パ 04 □パ 05 □パ 06 □パ 07 □パ 08 □パ 09 □パ 10

3 参加者

● □ 入場券のみ □ 入場券と特別セッション券（ ）枚

● **[特別セッションの方のみ記入]**（定員になりしだい締め切ります）

参加希望特別セッション名 10/4 特 -_____10/5 特 -_____

TC 協会 □会員 □非会員

参加予定をご記入ください ▶ □基調パネル □パ 01 □パ 02 □パ 03 □パ 04 □パ 05 □パ 06 □パ 07 □パ 08 □パ 09 □パ 10

4 参加者

● □ 入場券のみ □ 入場券と特別セッション券（ ）枚

● **[特別セッションの方のみ記入]**（定員になりしだい締め切ります）

参加希望特別セッション名 10/4 特 -_____10/5 特 -_____

TC 協会 □会員 □非会員

参加予定をご記入ください ▶ □基調パネル □パ 01 □パ 02 □パ 03 □パ 04 □パ 05 □パ 06 □パ 07 □パ 08 □パ 09 □パ 10

連絡先 郵便番号、住所、会社名、部署名、電話番号をお書きください。

請求書 □要 領収書 □要

参加料金

		会員（非課税）		非会員（消費税込）		払込合計金額
一般	入場券のみ	15,000 円 X	名	21,000 円 X	名	
	入場券と特別セッション券 1 枚	25,000 円 X	名	36,750 円 X	名	
	入場券と特別セッション券 2 枚	35,000 円 X	名	52,500 円 X	名	
	入場券と特別セッション券 3 枚	45,000 円 X	名	68,250 円 X	名	
	入場券と特別セッション券 4 枚	55,000 円 X	名	84,000 円 X	名	
	入場券と特別セッション券 5 枚	65,000 円 X	名	99,750 円 X	名	円
学生	入場券のみ			3,150 円 X	名	
	入場券と特別セッション券 1 枚			8,400 円 X	名	
	入場券と特別セッション券 2 枚			13,650 円 X	名	
	入場券と特別セッション券 3 枚			18,900 円 X	名	
	入場券と特別セッション券 4 枚			24,150 円 X	名	
	入場券と特別セッション券 5 枚			29,400 円 X	名	円

申込先 **一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 FAX 03-3368-5087**

テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2012

主催
一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

後援
経済産業省

協力（50 音順）
アジア太平洋機械翻訳協会、一般財団法人家電製品協会、一般財団法人関西情報センター、公益財団法人共用品推進機構、共立出版株式会社、一般社団法人コンピュータソフトウエア協会、一般社団法人電子情報技術産業協会、日刊工業新聞社、日経デザイン、株式会社日経 BP、日本教育心理学会、公益社団法人日本工業英語協会、一般社団法人日本翻訳連盟、一般財団法人ニューメディア開発協会、フジサンケイ ビジネスアイ（日本工業新聞社）

シンポジウム実行委員長
守島　浩 …（株）日立製作所

プログラム委員長
下村　忠宏 …（株）日立製作所

シンポジウム実行委員

石黒　大士郎 …（株）ヒューマンサイエンス
久保寺　佳奈 … ソニー（株）
黒須　学 … インフォトランス（株）
下拂　伸一 … アベイズム（株）
堂守　一也 …（株）日立製作所
原　小百合 …（株）富士通ラーニングメディア
深井　徳朗 … アヴァシス（株）
松野　裕司 …（株）クレステック
森山　武 …（株）リコー
山田　智仁 …（株）日立製作所
吉田　稔 …（株）JVC ケンウッド
小川　維一 …（株）シイエム・シイ
栗谷　裕哉 …（株）日立製作所
三波　千穂美 … 筑波大学
関　和佳代 …（株）パセイジ
野本　英男 … YAMAGATA INTECH（株）
百武　正人 … 東芝テック画像情報システム（株）
松浦　梨絵 …（株）日立テクニカルコミュニケーションズ
森口　功造 …（株）川村インターナショナル
八戸　英夫 … 工学院大学
吉川　明 …（株）日立テクニカルコミュニケーションズ

シンポジウム関西開催代表
村田　珠美 …（株）テックコミュニケーションズ

シンポジウム関西開催実行委員

石井　純生 …（株）石田大成社
石川　秀明 … ヤマハ（株）
岡本　浩 …（有）ユーザーフレンドリー
金本　誠 …（株）テックコミュニケーションズ
黒田　晋一 …（株）島津製作所
清水　将貴 …（株）情報システムエンジニアリング
田中　謙司 …（株）パセイジ
西村　進 …（株）パセイジ
藤井　尚史 … パナソニック ビジネスーサービス（株）
堀内　裕 … アベイズム（株）
松本　和久 …（株）石田大成社
石井　満 …（株）シーエフメディアジャパン
畝本　あい子 …（株）島津製作所
梶谷　彰一 … パナソニック（株）
木谷　千鶴 … タイガー魔法瓶（株）
篠田　修 …（有）エムツー・ジェイ
鋤野　英俊 … ダイキン福祉サービス（株）
寺田　安夫 … パナソニック（株）
福間　俊治 …（株）パセイジ
細田　達幸 … パナソニック（株）
堀江　俊昭 …（株）テックコミュニケーションズ
宮崎　邦明 … エニシード（有）

シンポジウム委員長
黒田　聡 …（株）情報システムエンジニアリング

シンポジウム副委員長
島田　能里子 … ソニー（株）

シンポジウム委員

小林　栄一 …（株）日立製作所
清水　義孝 …（株）クレステック
徳田　直樹 …（株）パセイジ
中村　哲三 … YAMAGATA INTECH（株）
吉田　正志 … 富士ゼロックスアドバンストテクノロジー（株）
小林　久美子
園田　治 …（株）情報システムエンジニアリング
長久保　律子 …（株）富士通ラーニングメディア
牧田　克彦 …（株）リコー

事務局担当者
小田嶋　琢哉、蓑田　正俊 … 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

表紙デザイン
（株）日立テクニカルコミュニケーションズ、（株）日立製作所

本文中の各社の登録商標または商標には、"TM"、"R" マークは表示しておりません。
この冊子は、PDF/X で入稿して印刷しております。